平成28年第4回（12月）定例会

つがる市議会会議録

平成28年12月1日 開会

平成28年12月14日 閉会

つがる市議会

平成28年第4回つがる市議会 定例会会議録目次

第 1 号 (12月1日)

議事日程	1
本日の会議に付した事件	2
出席議員	3
欠席議員	3
地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名	4
職務のため議場に参加した者の職氏名	4
開会、開議宣告	5
会議録署名議員の指名	5
会期の決定	5
諸般の報告	5
議案第78号～議案第94号の上程、提案理由の説明	6
・議案第78号 平成28年度つがる市一般会計補正予算(第4号)案	
・議案第79号 平成28年度つがる市農業集落排水事業特別会計補正予算(第3号)案	
・議案第80号 平成28年度つがる市公共下水道事業特別会計補正予算(第3号)案	
・議案第81号 平成28年度つがる市国民健康保険特別会計補正予算(第3号)案	
・議案第82号 平成28年度つがる市後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)案	
・議案第83号 平成28年度つがる市介護保険特別会計補正予算(第3号)案	
・議案第84号 つがる市地方活力地域に係る固定資産税の特別措置に関する条例案	
・議案第85号 つがる市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例案	
・議案第86号 つがる市特別職の職員で常勤のもの給与及び旅費に関する条例及び 旧つがる市教育委員会教育長の給与及び勤務時間等に関する条例の一部 を改正する条例案	
・議案第87号 つがる市議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を 改正する条例案	
・議案第88号 つがる市特別職の職員で非常勤のもの報酬及び費用弁償に関する条 例の一部を改正する条例案	
・議案第89号 つがる市税条例の一部を改正する条例案	
・議案第90号 つがる市公の施設に係る指定管理者の指定の件 (つがる市稲垣野菜育苗センターA棟、つがる市稲垣野菜育苗センターB棟、つがる市	

稲垣野菜育苗センターC棟、つがる市稲垣花き育苗センター、つがる市稲垣ライスセンター、つがる市稲垣カントリーエレベーター)

・議案第91号 つがる市公の施設に係る指定管理者の指定の件

(つがる市ふるさと創生物産広場、つがる市柏農産物加工技術開発センター)

・議案第92号 つがる市公の施設に係る指定管理者の指定の件

(つがる市木造農産物加工センター)

・議案第93号 つがる市西北五広域連合規約の変更の件

・議案第94号 青森県市町村総合事務組合規約の変更の件

散会の宣告..... 8

第 2 号 (12月5日)

議事日程..... 9

本日の会議に付した事件..... 9

出席議員..... 10

欠席議員..... 10

地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名..... 11

職務のため議場に参加した者の職氏名..... 11

開議宣告..... 12

一般質問..... 12

12番 成田克子議員..... 12

4番 長谷川榮子議員..... 15

2番 田中 透議員..... 26

1番 齊藤 渡議員..... 32

9番 三上 洋議員..... 37

18番 松橋勝利議員..... 41

散会の宣告..... 47

第 3 号 (12月6日)

議事日程..... 49

本日の会議に付した事件..... 50

出席議員..... 51

欠席議員..... 51

地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名..... 52

職務のため議場に出席した者の職氏名	5 2
開議宣告	5 3
一般質問	5 3
17番 伊藤良二議員	5 3
総括質疑	6 2
予算特別委員会の設置	6 2
議案等委員会付託	6 3
請願・陳情の件	6 3
散会の宣告	6 3

第 4 号 (12月14日)

議事日程	6 5
本日の会議に付した事件	6 5
出席議員	6 6
欠席議員	6 6
地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名	6 7
職務のため議場に出席した者の職氏名	6 7
開議宣告	6 8
予算特別委員長審査報告、討論、採決	6 8
総務常任委員長審査報告、討論、採決	6 9
経済建設常任委員長審査報告、討論、採決	7 0
日程の追加	7 1
議案第95号の上程、説明、質疑、討論、採決	7 1
・議案第95号 つがる市公園等に関する条例の一部を改正する条例案	
議案第96号の上程、説明、質疑、討論、採決	7 2
・議案第96号 訴訟上の和解の件	
日程の追加	7 3
発議第1号の上程、採決	7 4
・発議第1号 若い人も高齢者も安心できる年金を求める意見書案	
発議第2号の上程、採決	7 4
・発議第2号 地方議会議員の厚生年金への加入を求める意見書案	
閉会の宣告	7 4
署 名	7 5

第 1 号

平成 2 8 年 1 2 月 1 日 (木曜日)

平成28年第4回つがる市議会定例会会議録

議事日程（第1号）

平成28年12月 1日（木曜日）午前10時開会、開議

1 開会、開議宣告

1 議事日程

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 会期の決定

日程第3 諸般の報告

日程第4 議案第78号 平成28年度つがる市一般会計補正予算（第4号）案

議案第79号 平成28年度つがる市農業集落排水事業特別会計補正予算（第3号）案

議案第80号 平成28年度つがる市公共下水道事業特別会計補正予算（第3号）案

議案第81号 平成28年度つがる市国民健康保険特別会計補正予算（第3号）案

議案第82号 平成28年度つがる市後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）案

議案第83号 平成28年度つがる市介護保険特別会計補正予算（第3号）案

議案第84号 つがる市地方活力地域に係る固定資産税の特別措置に関する条例案

議案第85号 つがる市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例案

議案第86号 つがる市特別職の職員で常勤のもの給与及び旅費に関する条例及び旧つがる市教育委員会教育長の給与及び勤務時間等に関する条例の一部を改正する条例案

議案第87号 つがる市議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例案

議案第88号 つがる市特別職の職員で非常勤のもの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例案

議案第89号 つがる市税条例の一部を改正する条例案

議案第90号 つがる市公の施設に係る指定管理者の指定の件

（つがる市稲垣野菜育苗センターA棟、つがる市稲垣野菜育苗センターB棟、つがる市稲垣野菜育苗センターC棟、つがる市稲垣花き育苗センター、つがる市稲垣ライスセンター、つがる市稲垣カントリーエレベーター）

議案第91号 つがる市公の施設に係る指定管理者の指定の件

（つがる市ふるさと創生物産広場、つがる市柏農産物加工技術開発センター）

議案第92号 つがる市公の施設に係る指定管理者の指定の件

（つがる市木造農産物加工センター）

議案第93号 つがる西北五広域連合規約の変更の件

議案第94号 青森県市町村総合事務組合格約の変更の件

本日の会議に付した事件

議事日程のとおり

出席議員（19名）

1番	齊藤 渡	2番	田中 透	3番	佐々木 敬藏
4番	長谷川 榮子	5番	成田 博	6番	木村 良博
7番	佐藤 孝志	8番	長谷川 徹	9番	三上 洋
10番	野呂 司	11番	天坂 昭市	13番	佐々木 直光
14番	佐々木 慶和	15番	平川 豊	16番	山本 清秋
17番	伊藤 良二	18番	松橋 勝利	19番	白戸 勝茂
20番	高橋 作藏				

欠席議員（1名）

12番 成田 克子

地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

市 長	福 島 弘 芳
副 市 長	佐 藤 昭 三
教 育 長	葛 西 岷 輔
総 務 部 長	倉 光 弘 昭
財 政 部 長	三 上 保 男
民 生 部 長	八木橋 勝 弘
福 祉 部 長	境 宏
経 済 部 長	山 内 信 昭
建 設 部 長	新 岡 秀 行
会 計 管 理 者	下 山 芝 規
総 務 課 長	今 正 行
財 政 課 長	加 藤 靖
市 民 課 長	長 内 信 行
福 祉 課 長	白 戸 登
農 林 水 産 課 長	工 藤 睦 郎
土 木 課 長	宮 崎 朋 仁
教育委員会委員長	成 田 悦 雄
選挙管理委員会委員長	成 田 照 男
監 査 委 員	長谷川 勝 則
教育委員会部長	木 村 好 秀
消 防 長	山 口 一 寿
選挙管理委員会事務局長	岩 川 正 人
農業委員会事務局長	小山内 健 二
監査委員事務局長	北 畠 悟
農業委員会会長職務代理者	乳 井 春 光

職務のため議場に出席した者の職氏名

事 務 局 長	野 呂 金 弘
事 務 局 次 長	秋 田 俊
総 務 係 長	三 上 眞 理 子
議 事 係 長	葛 西 正 美

◎開会、開議宣告

- 議長（佐々木慶和君） おはようございます。ただいまの出席議員数は19名で、定足数に達しておりますので、平成28年第4回つがる市議会定例会を開会します。
直ちに会議を開きます。

（午前10時00分）

◎会議録署名議員の指名

- 議長（佐々木慶和君） 本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

本定例会の会議録署名議員は、会議規則第88条の規定により4番、長谷川榮子議員、5番、成田博議員を指名します。

◎会期の決定

- 議長（佐々木慶和君） 日程第2、会期の決定を議題とします。

お諮りします。本定例会の会期は、お手元に配付の会期予定表のとおり、本日から12月14日までの14日間としたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

- 議長（佐々木慶和君） ご異議なしと認め、会期は本日から12月14日までの14日間と決定しました。
-

◎諸般の報告

- 議長（佐々木慶和君） 日程第3、諸般の報告を行います。

本日、成田克子議員より欠席の届け出がありましたので、報告します。

地方自治法第121条第1項に基づく今定例会への説明員は、お手元に配付の名簿のとおりであります。

次に、市長から報告第11号から報告第20号までの専決処分した事項の報告の件10件について提出があり、お手元に配付しております。

また、監査委員から例月出納検査の平成28年度7月から9月分の報告書の提出があり、その写しを配付しております。

次に、農業活性化特別委員会の活動終了について報告します。本委員会は、昨年3月、議員発議により設置され、当市の農業活性化策を探るため調査、研究を重ねてまいりました。去る10月13日、市長へ提言書を提出し、所期の目的を達成したことを報告します。なお、提言書の写しを配付しておりますので、ご了承願います。

以上で諸般の報告を終わります。

◎議案第78号～議案第94号の上程、提案理由の説明

○議長（佐々木慶和君） 日程第4、議案第78号から議案第94号まで計17件を一括議題とします。
提案理由の説明を求めます。

福島市長。

〔市長 福島弘芳君登壇〕

○市長（福島弘芳君） おはようございます。本日ここに、平成28年第4回つがる市議会定例会の開会に当たり、上程されました議案の主なるものについて、その概要をご説明申し上げ、ご審議の参考に供したいと思っております。

本定例会に提出いたしました案件は、予算案6件、条例案6件、指定管理者の指定3件、その他2件、合わせて17件であります。

まず、予算案についてご説明申し上げます。

予算案については、議案第78号から議案第83号までの6件を提案しております。議案第78号「平成28年度つがる市一般会計補正予算（第4号）案」についてご説明申し上げます。本補正予算案は、職員の給与改定に要する経費、国の第2次補正予算に対応する経費などについて、所要の予算措置を講ずることとしたものであります。

その結果、平成28年度つがる市一般会計の予算規模は、3億8,216万8,000円を追加し、予算総額を260億1,429万9,000円とするものであります。

それでは、歳出に計上された主なるものについて、ご説明申し上げます。

まず、このたびの職員の給与改定においては、青森県人事委員会の勧告内容に準じ、給料月額を0.15%、勤勉手当の支給割合を0.05月分それぞれ引き上げるものであります。

その結果、給与改定費としては、788万8,000円となりますが、既計上の給与関係費の精査による増減額との調整を行った上で計上いたしました。

なお、特別職及び議員の期末手当については、一般職に準じ、支給割合を0.05月分引き上げることであります。

次に、給与改定経費以外のものについて、款を追い、ご説明申し上げます。

総務費については、財政管理費において、本補正予算の財源調整のため財政調整基金積立金を1億6,143万7,000円減額計上いたしました。

民生費については、介護保険費において、介護ロボット等導入支援特別事業費補助金648万9,000円を計上いたしました。

障害者福祉費においては、施設利用者の増加に伴い、障害福祉サービス費等給付費を初め各給付費に7,157万8,000円を計上いたしました。

また、臨時福祉給付金給付事業費においては、国の経済対策である一億総活躍社会の実現の加速に向けた、臨時福祉給付金給付事業費 1 億6,120万6,000円を計上いたしたほか、保育所運営費においては、平成27年度補助金の確定に伴い、保育所運営費負担金返還金5,269万3,000円を計上いたしました。

農林水産業費については、農業振興費において、プレミアムメロン奨励金として、つがるブランド推進会議補助金503万5,000円を計上いたしました。

教育費については、統合小学校建設費において、施設建設工事費 1 億2,770万6,000円、中学校費学校建設費においては、非構造部材落下防止対策工事費1,595万2,000円をそれぞれ計上いたしました。

以上が歳出予算の概要であります。

次に、歳入予算についてご説明申し上げます。補正予算の主なる財源といたしましては、歳出との関連における国・県支出金、市債について、それぞれ所要額を補正いたしました。

議案第79号から議案第83号までの平成28年度各特別会計補正予算案につきましては、ご審議の際、詳細にご説明申し上げます。

次に、条例案についてご説明申し上げます。

条例案については、議案第84号から議案第89号までの 6 件を提案しております。

議案第84号「つがる市地方活力向上地域に係る固定資産税の特別措置に関する条例案」は、認定地方活力向上地域特定業務施設整備計画に従って特定業務施設を新設し、または増設した家屋等に対する固定資産税について、不均一の課税を行うに当たり必要な事項を定めるものであります。

議案第85号「つがる市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例案」から議案第87号「つがる市議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例案」は、青森県人事委員会の勧告内容に準じ、一般職及び特別職の給与、並びに議員報酬を改定するため、所要の改正を行うものであります。

議案第88号「つがる市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例案」は、新たに設置される非常勤特別職の職員の報酬の額を定めるものであります。

議案第89号「つがる市税条例の一部を改正する条例案」は、地方税法等の一部改正に伴い、公共下水道の除害施設及び再生可能エネルギー発電設備に課する固定資産税を軽減する特例割合を定めるため、所要の改正を行うものであります。

議案第90号から議案第92号までの「つがる市公の施設に係る指定管理者の指定の件」 3 件は、いずれも指定管理期間の満了に伴い、指定管理者を更新するものであります。

議案第93号「つがる市西北五広域連合規約の変更の件」は、広域市町村圏計画及びふるさと市町村圏計画の策定事務の廃止等に伴い、規約を変更するものであります。

議案第94号「青森県市町村総合事務組合規約の変更の件」は、当該組合が共同処理する事務のう

ち市町村税等の滞納整理事務にむつ市を加えることに伴い、規約を変更するものであります。

以上をもちまして、提出議案の概要についてご説明申し上げましたが、議事の進行に伴い、ご質問に応じ、本職を初め関係者から詳細にご説明申し上げたいと思います。

何とぞ、慎重ご審議の上、原案どおり御議決を賜りますようお願い申し上げまして、提案理由の説明といたします。

○議長（佐々木慶和君） 提案理由の説明が終わりました。

◎散会の宣告

○議長（佐々木慶和君） 以上で本日の日程は全て終了しました。

あしたから4日までは議案熟考等のため休会となります。

5日は午前10時から会議を開きます。

本日はこれにて散会します。

(午前10時14分)

第 2 号

平成 2 8 年 1 2 月 5 日 (月曜日)

平成28年第4回つがる市議会定例会会議録

議事日程（第2号）

平成28年12月 5日（月曜日）午前10時開議

1 開議宣告

1 議事日程

日程第1 一般質問

本日の会議に付した事件

議事日程のとおり

出席議員（20名）

1番	齊藤 渡	2番	田中 透	3番	佐々木 敬藏
4番	長谷川 榮子	5番	成田 博	6番	木村 良博
7番	佐藤 孝志	8番	長谷川 徹	9番	三上 洋
10番	野呂 司	11番	天坂 昭市	12番	成田 克子
13番	佐々木 直光	14番	佐々木 慶和	15番	平川 豊
16番	山本 清秋	17番	伊藤 良二	18番	松橋 勝利
19番	白戸 勝茂	20番	高橋 作藏		

欠席議員（なし）

地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

市 長	福 島 弘 芳
副 市 長	佐 藤 昭 三
教 育 長	葛 西 岷 輔
総 務 部 長	倉 光 弘 昭
財 政 部 長	三 上 保 男
民 生 部 長	八木橋 勝 弘
福 祉 部 長	境 宏
経 済 部 長	山 内 信 昭
建 設 部 長	新 岡 秀 行
会 計 管 理 者	下 山 芝 規
総 務 課 長	今 正 行
財 政 課 長	加 藤 靖
市 民 課 長	長 内 信 行
福 祉 課 長	白 戸 登
農 林 水 産 課 長	工 藤 睦 郎
土 木 課 長	宮 崎 朋 仁
教育委員会委員長	成 田 悦 雄
選挙管理委員会委員長	成 田 照 男
農業委員会会長	山 本 康 樹
監 査 委 員	長谷川 勝 則
教育委員会部長	木 村 好 秀
消 防 長	山 口 一 寿
選挙管理委員会事務局長	岩 川 正 人
農業委員会事務局長	小山内 健 二
監査委員事務局長	北 島 悟

職務のため議場に参加した者の職氏名

事 務 局 長	野 呂 金 弘
事 務 局 次 長	秋 田 俊
総 務 係 長	三 上 眞 理 子
議 事 係 長	葛 西 正 美

◎開議宣告

○議長（佐々木慶和君） ただいまの出席議員数は20名です。定足数に達していますので、これより本日の会議を開きます。

（午前10時00分）

◎一般質問

○議長（佐々木慶和君） 本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

日程第1、一般質問を行います。

なお、質問等は、答弁を含めて1時間以内であります。

◇ 成 田 克 子 君

○議長（佐々木慶和君） それでは、通告順に質問を許可します。

第1席、12番、成田克子議員の質問を許可します。

成田克子議員。

〔12番 成田克子君登壇〕

○12番（成田克子君） 皆様、おはようございます。第1席を賜りました芳政会の成田克子でございます。マスコミ等では、連日のように2020年東京オリンピック・パラリンピック大会の会場の見直し問題が取り沙汰されておりますが、このたびのリオデジャネイロオリンピック・パラリンピック大会における日本選手団の活躍ぶりには目をみはるものがございました。特に障害者スポーツ最大の祭典でありますパラリンピック大会には、世界159カ国から4,300名の選手団が集い、日本からは132名の選手が派遣されており、青森県関係者はゴールボールに八戸市の女性と、三沢市から車椅子テニスのコーチの男性と、ご両親が弘前市相馬出身の競泳選手の女性の3名の方々でありました。今回日本初の銀メダルを獲得した重度の脳性麻痺のボッチャチームは、国民に驚きと感動とパワーを与え、障害者スポーツのだいご味を伝えてくださいました。2020年の東京パラリンピックには、ぜひとも本市からも出場選手が誕生してくれればと期待しているところでございます。そこで、障害者スポーツについて調査するために青森県障害者福祉センターへ行ってお話を伺ってきました。皆様のお手元には、議長のお許しをいただきまして本県の障害者スポーツ競技種目等の資料を配付させていただいておりますので、後ほどごらんいただければと思っております。

それでは、質問に入らせていただきます。障害者スポーツの普及と環境について伺いいたします。本県においても障害者スポーツの祭典が開催されておりますが、認知度はまだまだ低いようであります。ことしも第24回青森県障害者スポーツ大会が開催され、本市より25名の方々が出場されておりました。そこで、本市の障害のある方のスポーツトレーニング場や指導者等の環境はどのよ

うになっておりますでしょうか。また、十分な支援策がとられているのでしょうか、お伺いいたします。

次に、障害のある方もない方もスポーツを通して生きがいや生活の質の向上と健康長寿社会の実現にと、欠くことのできないスポーツであります、特に障害者スポーツの普及にはどのように取り組んでいるのでしょうか、お伺いいたします。

2点目では、障害者優先調達推進法への対応についてお伺いいたします。平成25年4月に施行された障害者就労施設等からの物品等の調達の推進法に関する法律であります、障害のある方が自立した生活を送るためには、就労によって経済的な基盤を確立することが必要であります。このため障害者の雇用を支援するための仕組みを整えて、就労施設の仕事を確保し経営基盤の強化が重要であるとしたことから、国や地方公共団体等は率先して障害者就労施設等からの物品の調達を推進するように法律が定められ、行政関係者には発注の拡大が求められております。この点について本市の取り組み状況をお伺いいたします。

これで1回目の質問とさせていただきます。

○議長（佐々木慶和君） 答弁を求めます。

福島市長。

〔市長 福島弘芳君登壇〕

○市長（福島弘芳君） 皆さん、おはようございます。成田議員の質問は、障害者スポーツあるいはまた障害者優先調達推進法についてでございます。

障害者スポーツは、障害のある方が主体となって行うスポーツでございます、教育や福祉、リハビリテーションや親睦などさまざまな目的で行われているのが現状でございます。現在つがる市が関係するものとしては、主に社会参加の促進を目的としたリハビリあるいはまたレクリエーション的に行われているものでございます。本市においては、障害者専用のスポーツトレーニング場はなく、既存の体育館などの施設を使用しているのが現状でございます。また、障害者の競技スポーツを対象とした指導員は現在いない状況でございます。

次に、支援策でございますけれども、各種大会などの情報提供あるいはまた大会などを開催するための施設の提供が主なもので、ほかに各障害者団体の要請に応じる形で支援を取り組んでございます。なお、競技スポーツにつきましても、要請はこれまでないため対応はございませんでした。今後競技スポーツなどについての支援要請があった場合は、関係部局に指示し、できる限りの支援をしたいというふうに考えております。

次に、推進法でございますけれども、つがる市におきましては市内障害者就労施設からの物品調達方針を定めまして、制度の周知を図るため各出先機関を含め各部局に毎年5月に通知をしているところでございます。物品などの調達の実績額は、平成26年度が34万5,000円、平成27年度が11万8,000円でございます。調達した物品の種類といたしましては、クリーニングが多く、次いで印刷、

事務用品、冊子となっております。

以上でございます。

○議長（佐々木慶和君） 成田議員。

○12番（成田克子君） ただいまのご答弁は、今後競技スポーツ等の要請があれば、できる限りの支援策をとってまいりたいとの大変前向きなご答弁をいただき、本市の障害のある方々のスポーツの普及に一縷の望みをかいま見たようで大変感謝いたしております。このたびスポーツ環境が十分でないにもかかわらず、青森県障害者スポーツ大会に出場した25名の選手たちの内訳は、身体障害の部に3名、知的障害の部には22名が出場し、6種目中4種目にチャレンジしており、市民にとっても大きな誇りになるのではないかと考えております。そこで、障害のない子供たちには毎年厳かな式典においてスポーツ賞の大きなメダルが授与されておりますが、障害者スポーツ大会に出場した選手たちにもこのメダルを与えて褒めていただきたいと考えているわけですが、いかがなものでしょうか。この点について教育委員会のご見解をお伺いいたします。

次に、優先調達推進法については、障害のある方の経済に与える影響が大きいことからお聞きしたいのですが、平成26年度の購入代金と比較すれば平成27年度は極端に減額となっておりますが、これはどうしてでしょうか、お知らせいただきたいと思っております。

また、今年度の購入代金の概略はどれくらいになりますか、おわかりであればお知らせいただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○議長（佐々木慶和君） 木村教育部長。

○教育委員会部長（木村好秀君） スポーツの普及と奨励についてということで、市では普及、奨励の一つとして市のスポーツ賞がまずございます。スポーツ賞は、まず健常者、障害者の区別なく県大会で優勝した者、それ以上の大会で優秀な成績をおさめた方に授与しております。中学生以下でありますとジュニアスポーツ賞ということで同じ取り扱いをしております。また、資格としては、個人は市に居住する者または市外に在学する市出身者、児童生徒の推薦については在籍する学校長の推薦となっております。ですから、結果としては優勝するという基準になっておりますので、ただ、今議員ご指摘のようにこれからの普及、奨励に対してはどのような形で頑張っていたらいいのかということを検討してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

○議長（佐々木慶和君） 境福祉部長。

○福祉部長（境 宏君） 私のほうからは、物品調達についてお答えさせていただきます。

議員のご質問で、27年度が26年度に比べて調達している額が少ない、その理由を述べよということでございますが、市内におきましては対象となっております事業者が少なく、取り扱っている物品等についても市役所の業務に使用している物品等は少ない状況にあります。そういった中で、クリーニングあるいは印刷関係などがその実績額の主なものになってございます。27年度におきましては、市から発注いたしました印刷物等が少なかったため前年を下回っているということでござい

ますが、26年度は福祉課のほうで障害者の計画策定いたしまして、その印刷関係、これが15万ほどでしたか、といった額がまとまって出ておりますので、26年度はほかの年度に比べて少し多かったということでございます。ただ、物品調達につきましては、地元業者優先という考え方もございます。そのため、限られた予算の中から少しでも各部局に障害者就労施設から調達していただけるよう周知して、今後も努めてまいりたいと思います。

それから、今年度の額はいかほどかということでございますが、これ毎年度年度末に集計してございまして、今のところまだ額というものを把握してございませんので、よろしく願いいたします。

○議長（佐々木慶和君） 成田克子議員。

○12番（成田克子君） 最後になります。障害のある子供の親御さんは、いまだ偏見や差別的なものはそれとなく感じているとお話ししておりました。でも、これはあってはならないことだと思うわけですが、このような状況をなくするための方策といましようか、幼少のころから障害のある子供たちとの交流の機会を与えることは、弱者に対する思いやりや気配り等の心の醸成につながり、ひいては分け隔てのない共生社会の構築につながると考えておりますが、市長、この点についてご見解をお聞かせいただいて私の質問を終わりたいと思います。よろしく願いします。

○議長（佐々木慶和君） 福島市長。

○市長（福島弘芳君） 確かに今成田議員が言われましたように、障害のある方あるいはない方でも分け隔てなく、そしてこのスポーツ、これに取り組んで頑張っていたいただきたいというふうに思っております。

○12番（成田克子君） 終わります。ありがとうございました。

○議長（佐々木慶和君） 以上で成田克子議員の質問を終わります。

◇ 長谷川 榮 子 君

○議長（佐々木慶和君） 第2席、4番、長谷川榮子議員の質問を許可します。

長谷川榮子議員。

〔4番 長谷川榮子君登壇〕

○4番（長谷川榮子君） 改めて、皆様おはようございます。通告の第2席を賜りました長谷川榮子でございます。きょうからライブ中継ということで、カメラがちょっと気になるところで緊張しております。また、いつも元気な私ですが、きょうはちょっと風邪が長引いていまして少し元気がないかなと思っておりますけれども、でもライブ中継のカメラを気にして、そしてまたきょうは小学生の皆さんが大勢傍聴に来てくださっております。この子供たちに何かいいものを感じていただけるように、声だけは皆さんのところにしっかりと届くように頑張っていきたいと思っておりますので、よろしく願い申し上げます。

それでは、今回は2点ほど通告しております。まず、農業政策について伺います。未来プロジェクトチームを立ち上げて3年たちました。つがる市の6次産業化の取り組みでございます。まず、取り組みの現状を伺います。

2点目は、現在の加工センターで製造されている商品はどんなものでしょうか、伺います。

農業政策の3点目、今後市として取り組める農作物はどんなものがありますでしょうか。お考えがありましたらお聞かせください。

通告の2点目、つがる市の観光施策について伺います。私は、昨年12月議会にもこの地球村の円形劇場について伺っております。それで、今回1年たちましたので、全く同じ質問です。円形劇場のPR方法と、本年度これまでの活用実績をお知らせください。また、市としての活用の具体的な事業計画がおありでしょうか、伺います。

3点目、PRの一つとして活用案を公募する方法もあると思いますが、その辺の見解をお聞かせください。よろしく申し上げます。

○議長（佐々木慶和君） 答弁を求めます。

福島市長。

〔市長 福島弘芳君登壇〕

○市長（福島弘芳君） 農業問題、6次産業についてでございますが、まず1点目の現状といたしまして6次産業化の取り組みを推進するため、つがる市食産業ネットワーク、これを設置し、平成26年からつがる市食産業ネットワーク未来プロジェクト、この事業を実施して会員の意向調査及び人材育成研修会、農林漁業者への商品開発あるいはまた販売会、商談会などのサポート活動を行ってまいりました。

第2点目の加工センターで製造されている商品につきましては、みそ、納豆、豆腐、ところてん、ジュース類などでございます。

3点目の今後市として取り組める農産物はないかについてでございますけれども、今後取り組みが期待できる農産物としては、1食分で使い切りできる長芋などのカット野菜の真空パック、あるいはまた健康志向からハウレンソウなど青菜の1次加工製品などが考えられます。さらに、市場においては加工用野菜として需要が上昇してきております農産物は、焼き肉のたれの原料のタマネギあるいはまた薬味用のネギ、サラダ用のレタスなどが挙げられると思います。

私のほうからは以上でございます。答弁は担当のほうにもさせます。

○議長（佐々木慶和君） 山内経済部長。

○経済部長（山内信昭君） 長谷川榮子議員のつがる市の観光施策、地球村の円形劇場の活用についてのご質問にお答えいたします。

まず、1点目の円形劇場のPR方法と、本年度これまでの活用実績はというご質問なのでございますけれども、円形劇場のPRについては、つがる地球村のパンフレット及びホームページ上で掲載し、行

っております。また、今年度の利用実績はございません。

続きまして、2点目の市としての活用の具体的な事業計画はあるのかというご質問なのですが、具体的な事業計画でございますが、まだ関係者に問い合わせをしている段階ですが、映画を上映したらどうかと考えております。例えば映画祭という位置づけで、メインとなる映画のほかに本市で撮影した「明日に架ける愛」、つがる市フィルムコミッションが制作したショートムービー「けの汁」などを上映し、屋内の映画館と違った形で楽しめるよう円形劇場を有効活用できないか、予算を含め関係者と検討していきたいと思っております。

続きまして、3点目、PRの一つとして活用案を公募する方法もあると思うが、見解を聞きたいというご質問なのですが、円形劇場については大規模な野外コンサートなど主な使用目的と思われる方が多いため、一般の方々には使用できない施設だと思込みがあるのかもしれない。そのため幅広く活用していただくには公募も必要な手段であると思っております。また、各種講演会や文化祭などの会場として積極的に利用していただけるよう指定管理者へ周知するとともに、市の広報紙などでPRを実施していきたいと思っております。

以上です。

○議長（佐々木慶和君） 長谷川議員。

○4番（長谷川榮子君） まず、6次産業化の取り組みについて伺いますけれども、私は6次産業の取り組み、未来プロジェクトチームを立ち上げて頑張っているわけですが、今市長の答弁では、加工センターで製造されている商品について、みそ、納豆、豆腐、ところてん、ジュース等などがお答えが返ってきましたけれども、これらはほとんど家庭用で消費されているもののような気がします。1つだけ売れているのといったら柏の産直で売っているところてん、これが大変評判がよくて、前はところてん、夏だけだったようですけれども、今は通年で販売しているというふうに私は捉えております。私の言いたいのは、一般家庭の消費ではなくて売ってもうけられる商品。未来プロジェクトチームを立ち上げて3年になったわけですね。それなりの指導者にお願いして包装やら、PRやら、いろいろ頑張ってきているわけですが、その中でこれだけは売れている、つがる市のものですよと言って製造して食べていけるだけのものになっているのはどの商品で、何点ぐらいでしょうか。

○議長（佐々木慶和君） 経済部長。

○経済部長（山内信昭君） 今現在黒にんにくということで販売額が今3,000万ぐらいいっている人もあります。そして、3人の雇用にも結びついて、自宅のほうに加工場も設置して、これからもっと販路を広げるといって聞いております。

○議長（佐々木慶和君） 長谷川議員。

○4番（長谷川榮子君） 今結局個人で、ばらばらで頑張っているわけですね。同じような質問を25年度の12月議会で成田克子議員が質問しております。それに市長も当時の経済部長も、力強く支援す

る、力強く押し進めていくという答弁をされております。私の言いたいのは、その3年間でどのように支援をされていったのか、そしてそれが3年たって具体的に増えてきたものは何でしょうか。

○議長（佐々木慶和君） 経済部長。

○経済部長（山内信昭君） 先ほども市長も述べましたけれども、プロジェクトチームをつくって、会員今現在28名ですか、いるのですけれども、要はやる気のある、積極的にその6次産業に向かうという、そういう意識が芽生えたということ、これは成果と思います。そしてまた、確かに金額的にはまだ売れてないのですけれども、これからそれを産業化するためにいろいろ市としても支援していきたいと思っています。

○議長（佐々木慶和君） 長谷川議員。

○4番（長谷川榮子君） 以前から比べたら大分手を挙げてきている方もいらっしゃるのですが、これは大変いいことだと思うのです。でも、今現在ばらばらのような気がしてならないわけなのです。例えば一般家庭の消費者向けのみそであれ豆腐であれ、今木造の加工センターはごった返しています。予約がとれないというくらい農家の方々は家庭向けに、販売ではなくて家庭向けに加工センターを利用しているわけです。私は、6次産業ですから産業化といったら食べていける、売って販売して農家の所得につなげるのが産業化というのではないのでしょうかと思うのですが、まずそこが一致しないとこれから先進まないで、まずこれは市長に伺えますでしょうか。お願いします。

○議長（佐々木慶和君） 福島市長。

○市長（福島弘芳君） 6次産業化のそれこそ意味でございますけれども、今長谷川議員が言われましたように、それこそこれで商売やっていけるというようなやり方もあるでしょうし、あるいはまた産直売ですか、例えば柏でもフラットのほうでもやっていって結構これで生活の足しになると、あるいはまたある意味では一つの企業と申しましょうか、個人でありましてもそういうようなものにつながっていけばいいのではないかと。6次産業は確かにこれでそれこそ飯を食べていけるといえばなんですけれども、事業化できてやるのも6次産業でもあるし、あるいはまたあと私後半にも言いましたように、それもまた一つの6次産業のあらわれなのではないかというふうに思っております。

○議長（佐々木慶和君） 長谷川議員。

○4番（長谷川榮子君） 今の市長の答弁、わかったようなわからないような。私はもっと強力で押し進めて、もっと裾物、傷物の、当市はメロンやスイカやいろいろあるわけなのですけれども、みんなその傷物で所得が上がらないわけなのですよね。それらを加工して、そして何とか所得につなげていくのが6次産業の発展ではないかなと思うのです。産直、確かに柏の産直は傷物の野菜、キュウリの時期なんかは漬物にして大変所得を上げている人がおります。でも、それはほんの1人か2人、それだったら私は6次産業を声高々に支援するというのはもっと足りないと思うのですよ。もっともっと強力で進めていかなければいけないのではないかなと思います。そうなれば、よく農

業活性化委員会で会議のたびに出たのが加工場をつくってはどうか。今木造、柏、稲垣、車力、森田の加工場は何か今使っていないそうですけれども、その地域でばらばらなわけなのですよ。それを何とか市が主導権を握って大きい加工場をつくって、どうぞ思う存分に使って所得向上につなげてほしい、そういうふうには持っていけないものなのかなと、そういうふうには私は考えます。これは私ばかりではなくて活性化委員会の人たち、会議のたびに出たことなので、その辺のお考え、経済部長、お願いします。

○議長（佐々木慶和君） 経済部長。

○経済部長（山内信昭君） 食産業ネットワーク未来プロジェクトはことしで3年目を迎えて、来年以降もまた3カ年で、さらにブラッシュアップということで市として支援するつもりです。そして、利用者のこれから意見を聞きながら、6次産業化に特化した拠点の施設の整備を検討していきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

○議長（佐々木慶和君） 長谷川議員。

○4番（長谷川榮子君） よく答弁の中に前向きに検討しますというのが毎回返ってきますけれども、前向きってどの辺まで、私はことしじゅうに何とかしますとかという、そういうのが前向きな答弁だと思うのですけれども、そういうふうには言われたいのでしょうか。

○議長（佐々木慶和君） 経済部長。

○経済部長（山内信昭君） 関係者もいますし財政的なものもありますので、ここですぐやるとはちょっとお答えできませんので、議員言っているように1年でも早くその事業化に向けて頑張りたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

○議長（佐々木慶和君） 長谷川議員。

○4番（長谷川榮子君） 財政的なことを当然避けては通れないわけですが、でも今財政的なことは一番やりやすいのではないですか。国で言ってますでしょう。自治体には国が応援します。地方創生と持ち出して今が一番補助金を得やすい。やる気があって将来性のあるところには国が助成しますと言っているのです。問題はそこだと思います。市長、やる気がありますかどうか、まずお願いします。

○議長（佐々木慶和君） 福島市長。

○市長（福島弘芳君） 6次産業化の推進、これはやっていきたいと、やります、これは。

○議長（佐々木慶和君） 長谷川議員。

○4番（長谷川榮子君） 私の願いは、ちょぼちょぼやるのではなくて強力にやってほしいということです。そこをもう一回。

○議長（佐々木慶和君） 福島市長。

○市長（福島弘芳君） それも含めて考えてやっていきたいという。

○議長（佐々木慶和君） 長谷川議員。

○4番（長谷川榮子君） 今後市として取り組める農作物はないかというふうに質問しましたら、まず農作物としては1食分で使い切りできる長芋のカット野菜の真空パック、健康志向からハウレンソウ等などの青物の1次加工などが考えられます。焼き肉のたれ用のタマネギですか、そういうものが挙げられるそうでございますけれども、長芋の真空パックは市場に出回ってもう20年以上はたつと思います。私の言いたいのは、つがる市の1次産業、何ととっても米づくりだと思うのですよね。ちよくちよく米の消費のことが取り上げられます。何年か前に私は、学校給食に米飯給食をもっと取り入れるべきではないか、そういう発言をしたことがあります。アレルギーの子供たちのことを考えたならば、今米粉がどこでも普通にパンとか麺に取り組みまして、学校給食に積極的に取り上げている自治体もあります。そのことを申し上げましたときに教育委員会の答弁は、学校給食のお金が決まっているものだから米粉のものを使うには高くつく、だからちょっと無理なのだ、そういう答弁が返ってきたのを今思い出しました。この米粉を何とかできないものだろうかと思は思ふのですよ。これから多分、この間の活性化委員会の提言書にもありましたけれども、学校給食等なども検討するという事です。検討するという事ですので、ぜひ実現してほしいと思は思ふ。

うまく言えないのですけれども、私たち経済建設常任委員会がこの間栃木県、群馬県を中心として視察してきました。私たちの委員会は、いつでも視察先につがる市と対等ぐらいの人口密度のあるところ、環境も似ているようなところということで、ここ何年かそういうところを視察してきているわけです。今回は栃木県の茂木というところを視察に行ってきました、8名のメンバーの中で誰でもみんなが感動して、いや、これならおらほでも何とかまねできないものだろうか。6次産業の発展というのはこれではないか。そういうことを勉強してきたのです。それを今何とか皆さんにわかっていたきたい、そういうふうに思ったのですけれども、時間も限られておりますので、うまく表現できないので、夕べちょっと遅くまで頭を整理してちょっとメモってきました。それをちょっとご披露してみたいと思は思ふので、しっかりと聞いていただいて、私後で感想を伺いますので、よろしくお願ひします。

まず、出資状況は道の駅が90%、町が2%、農家4人で各2%出資しているそうです。広さが7ヘクタール、運営は地域おこし協力隊2人でやっているそうです。平成27年3月、役場の農林課退職の元職員1人の方、計3人がサポートしながら自分たちの野菜づくりをしているそうです。まず、委員の中で、省庁との接触で出向くときは課長が直接アポをとっているのかと伺いました。そのお答えは、まず町長が毎週のように東京に行っているそうです。その折必ず省庁めぐりをし、お金をもらえるようなものがないか各省庁へ立ち寄って、何かいいものがあると資料をいただいてきて、これで相談してこいと職員にハッパをかけるそうです。

ここでバウムクーヘンをつくっているのです。私は、バウムクーヘンを始めてまだそれほど日がたっていないようですが、売れ行きはどんなものですかと伺いました。そうしたら、3月から、こ

としの3月からですよ、3月から始め7カ月間で7,500万円の売り上げとなっております。順調なのでバウムクーヘンの工場を、今は店で製造しているわけですが、店を持たずに新たに工場を建てるそうです。1台の機械で焼いているが神戸の研修では8アイテムを勉強してきた。製造が間に合わないことから今は3アイテムしかやっていない。でも、新しい工場は来年の7月中旬には操業できるように進めている。私は、米粉を使っているところがほかのバウムクーヘンと違い大変特徴的だと思いますと感想を述べましたら、米粉もここでひいている。普通はひいてから日もちするように乾燥させるのだが、乾燥させないで生の米粉なのでふわふわ感、ソフトタイプやもちもち感の食感が得られて大変評判がいい。米粉といえばパンや麺が普通だがバウムクーヘンというのはなかなかない。そういうところに目をつけた点が素晴らしいですね。そうしたら、1人の委員が、バウムクーヘンの材料の古米の買い取り価格はどのくらいですかと聞きました。30キロで5,000円、高いときで7,480円で買い取っている。バウムクーヘンがよく売れたので古米が足りず28年産米を、刈り取る前の期間は27年産米を7,480円で買った。そうしないと全く足りなかった。

ここはユズがとれて、ゆず塩ラーメンというのが全国一になっています。私は、ユズは傷物でも買われているのですかと聞きましたら、全量買い上げている。すすがあって真っ黒になったものでもユズであれば何でも買って加工している。リンゴもつくっているようですが、リンゴの規格外品はどのように加工しておりますかと尋ねました。現在のところはジャムとアイスクリーム、今の時期だとリンゴヨーグルトアイスというものをつくっている。あとは生産者の方でジュースにし、そのジュースを販売している。リンゴソフトクリームは年間3,000万の売り上げだそうです。工場はありますか。ここ、またエゴマもつくっていますので、減反の転作作物になっているのですかと聞きました。加工場があります。エゴマは転作作物になっているので、茂木の田んぼは湿地帯であり麦や大豆などをつくれないうえ、一部を除きほとんどは畑にしエゴマをつくっている。ここ3年ほどエゴマブームであり全国放送に取り上げられた関係から、それまで1年間で売れた分が三、四カ月間で全部売れてしまった。ことし3月などは開店前の行列で抽選会をした。当たった人だけ買うことができ、外れた人はあしたまた並んでくださいという売り方しかできない状態だった。一番遠い方は青森からも欲しいという問い合わせがあったため、朝9時までに並んでくださいと伝えたら、青森から夫婦で来てエゴマ油を1本ずつ購入していった。今はエゴマ用のコールセンターもでき、女性2人を雇って1日ずっと注文を受けている。加工場で搾っているのが1日100本が限度だそうです。エゴマの油は油のほかに葉っぱはどのようにしていますか。紅茶のように使っている。

また、ある委員がバウムクーヘンのオープン自体の価格はどのくらいですかと聞きました。そうしたら、税別で約600万円、ほかに輸送代が若干かかります。生産は神戸のメーカーの指導があったとのことですが、ここに職人はいないのですかと尋ねました。ここから全くの素人が神戸に行き、そこで1週間、こちらの施設ができ上がってから今度は神戸から指導者が来て3週間、トータルで1カ月間修行してオープンに至ったそうです。すごいです。

それから、冒頭に何か事を起こさないと人は集まらないと話されたが、何か次の手だては考えていますかという質問に、昨年度はバウムクーヘンをやり成功しました。今年度はトイレを全面改装する。来年度はバウムクーヘンの新しい工場、その後は道路の向こう側に芝生の土地があるので子供の駅というのをつくりたい。そういうふうに次から次と先を見越しての考えを教えてくださいました。もうけて利益を従業員、住民に還元するという考えだそうです。従業員107人のうち約100人は町民だそうです。賃金を出すことが町民への還元である。こういうことも教えてくださいました。

それから、国交省の資料の中に農作物の生産指導も道の駅でされているとあったが、どのような指導されていますか。そういうふうに聞きましたら、専門的な指導は県を通して行う。ユズやエゴマだけは栽培から販売まで自分たちでやろうということにした。自分は異動前農林課におり、もともと農林課で行っていたということもあり、その仕事を持って異動したそうです。道の駅でバウムクーヘンをつくることに対して町内のお菓子屋さんとの摩擦のようなものはありませんかと聞きましたら、お菓子屋からはなかったそうです。ただ、副町長初め町の職員から大反対があったそうです。当時やろうと言ったのは町長とこの担当の元職員の2人だけだったそうです。反対の理由は何だったのでしょうかという質問に、箱物をつくって整備してうまく売れるのかという危惧、こんな小さいところでそういうのつくっても売れないだろうという大反対だったそうです。内閣府に提出する販売計画についても、数字が大き過ぎるのではと副町長が言ったが、ふたをあけてみると2カ月で達成したそうです。

それから、非常に印象的なのが農産物に関して農協とのかかわりはどうですかという質問に、かかわりは全くない。農協とのかかわりを持っている栃木県内の道の駅は頭を悩ませている。そういうふうに教えてくださいました。

大変な大成功のところで、環境的にもうちのほうとそんなに変わっていません。これらをまとめてみましたら、特産品を活用し町民の所得向上のため加工場を軸に6次産業化を推進している。町が加工場を整備している。これによりコストが大きく抑えられる。これによって雇用が生まれている。規格外の農作物も含め全量買い上げて加工している。町長が出張のときに各省庁を回り、常に補助事業などの情報収集をしている。また、それら補助事業の活用で財政負担を軽減している。また、生まれた利益は物であったり、イベントであったり、見える形で町民に還元している。町のためになると判断したことは前例のないこともいとわず挑戦している。その挑戦した結果が今の場合は米粉のバウムクーヘンです。

私の思いが伝わりましたでしょうか。今ちょっとまとめたのを読み上げてみたのですけれども、市長、どういうふうに感じましたか。例えばそれほど人気のあるバウムクーヘン、食べてみたいと思いますか。

○議長（佐々木慶和君） 福島市長。

○市長（福島弘芳君） 長谷川議員の今の話聞いたわけですがけれども、この話に関連したの経済建設

の委員長からも話聞いております。そういうことから、これは100%うまくいっている事例ではないかなというふうに思います。ですから、その町長もそうですけれども、そのほかの要するにやる気のある人、これを育てていかなければだめだなと私は思っています。やはり事の始まりは7ヘクタールの農地からとってきたものとか、さまざまなものを使っておるようでございますけれども、バウムクーヘンや何かは全く新しい発想といえば米粉でやる発想だと思います。ですから、そういうようなアイデアを持っている方あるいはまたやる気のある方、これを大切にしていかなければだめだなというふうに特に感じました。

○議長（佐々木慶和君） 長谷川議員。

○4番（長谷川榮子君） 現場に行っても買いたくても買えなかったのです。試食があったのですけれども、私は行動が案外と早いほうなので、8人行ったメンバーの中で試食したの私だけだったのです。すごくおいしかったのです。これをぜひ市長にも食べてほしいなと思ったので、今聞いて、食べたいか食べたくないか、それを聞きます。

○議長（佐々木慶和君） 福島市長。

○市長（福島弘芳君） いや、私バウムクーヘン余り好きではないのです。だけれども、そういうおいしいものでしたら、あれば1口ぐらい。

○議長（佐々木慶和君） 長谷川議員。

○4番（長谷川榮子君） 好きでないの無理に食べろとしゃべったってこれ無理なことだよ。でも、これもわかるのですよ。もうけたいと思いますか。それ伺います。

○議長（佐々木慶和君） 福島市長。

○市長（福島弘芳君） それは損するよりやはりもうけたほうが良いと思いますし、バウムクーヘンにかわるものがあれば、またこのつがる市からでもアイデアとして取り上げて、より商品になるように。

○議長（佐々木慶和君） 長谷川議員。

○4番（長谷川榮子君） 好き嫌い個人の手勝手ですので、それでいいと思いますけれども、でも市全体のためになること、町民に豊かになってほしい、雇用が生まれる、そういうことですので、私はこういうところはまねてもいいと思うのですよ。ほかのものと言いましたけれども、ソフトクリームにリンゴをしゃきしゃきと刻んで、ソフトクリームの中にリンゴが入っています、粉にしないで。食べると感触があるのです。それも売れているのです。経済部長、伺います。今の私の話を聞いて、ここ見てみたいなと思いませんか。食べてみたいと思いますか。

○議長（佐々木慶和君） 経済部長。

○経済部長（山内信昭君） そんなに売れているものであれば、ぜひ食べてみたいです。そしてまた、職員がそこ実際見てみていろいろ勉強したいなと思っています。

○議長（佐々木慶和君） 長谷川議員。

- 4番（長谷川榮子君） 同じ質問、総務部長にもお願いします。
- 議長（佐々木慶和君） 倉光総務部長。
- 総務部長（倉光弘昭君） そもそも6次産業については、農家の収益を上げることが第一ですけれども、栃木県のその6次産業の工場ですか、その場所と気候あるいは人口規模、それは似ているとは思いますが、その地理的位置づけですね。栃木は関東のエリアと、青森県つがる市は東北のエリアということで、全く同じ状況とは言いませんけれども、では同じことをやれば成功するのかというふうにはいかないのではないかと考えています。先ほど経済部長答弁したとおり、市が主導権を持ってこういうことをやりましょうではなくて、6年計画で3年間は一体何をつくって何を売り出せばいいのか、そういうことを勉強しましょうと、あとの後半3年はそれをもとに実際に販路を開拓して実際の商業ベースに乗せると、そういう計画ですので、例えばそれが本格的なルールに乗れば市は当然6次産業のそのベースとなる、核となるその大きな加工センターは当然計画を視野に入れていかなければならないし、そういう時期を今探っているというふうにございます。
- 議長（佐々木慶和君） 長谷川議員。
- 4番（長谷川榮子君） 教育長に伺います。6月議会のときでしたでしょうかね、地球村でつくった米粉の麺、食べられましたでしょうか。まず、それ伺います。
- 議長（佐々木慶和君） 葛西教育長。
- 教育長（葛西岷輔君） いただきました。どういう味かなということで私1人でなくて何人かでいただいて、食べた結果は大変おいしかったなというふうに頭に残っています。
- 議長（佐々木慶和君） 長谷川議員。
- 4番（長谷川榮子君） 私もいただいたのですけれども、本当においしいですよ。私は、あれっ、これ地球村でつくっているのかなと思ってよく見ましたら、ラーメンの老舗、熊さんラーメン、八戸が本社ですよ。そこに委託してつくっているのだそうですよ。大変おいしいのですけれども高いですよ。主婦の立場からいったら、買って食べるというところまでは値段の関係でちょっと首をかしげます。よくこの米粉が今取り上げられるのですけれども、南のほうに行くともう米粉のパンは普通なのです。この辺では鶴田の道の駅ぐらいで、まだ学校給食に取り入れていないのが現状のようですけれども、財政面なことがあるようですけれども、農業活性化委員会の提言にもありますように、これはぜひ本当に実現に向けて取り組んでいただきたいと思うのです。
- それで、さっきから食べたいか、見たいかという質問してきたのですけれども、市長、どうでしょうか、本当にそんなにいいところだったら職員派遣してみて、行って見てこい、いいところはやっぱり盗んでこいぐらいまでいかないものではないのでしょうか。お願いします。
- 議長（佐々木慶和君） 福島市長。
- 市長（福島弘芳君） その話は委員長のほうからも聞いています。これなら職員1人2人連れてき

たほういいのでないかなというふうな、委員長がそういう話ししておりますので、今後これから検討してみたいというふうに思います。

○議長（佐々木慶和君） 長谷川議員。

○4番（長谷川榮子君） 当局でも随分頑張っているのは私も評価します。だけれども、いまいち例えば深浦のマグロステーキ井とか、ガーリック井とかいろいろマスコミに取り上げられているところから見ると、うちのほうは話題にも上がらない、何とか話題に上がってほしい、売れてほしい、そのためにはやっぱり井の中のカワズではないけれども、この中にばかりいてはだめだと思うのですよ。やっぱり見聞を広めて、いいのはまねして、教えてもらって、百聞は一見にしかず、見るのが一番です。私もここに行くまでは、まさかあっちのほう天気もいいし、気候もいいし、第一人口が多いから売れるのは当たり前だろう、そのくらいにしか思っていました。でも、行って見て、何ということないのです。柏の産直みたいなのを大きくしたようなものなのですが、その商人の魂というか、売る姿勢というか、つくるその姿勢というか、その辺が違うのです。それをぜひ学んでほしい。ぜひまねをしてほしい。私はそういう思いでいっぱいですので、ぜひ財政的なことがありましたら詰めていただきたいと思います。優秀な職員がいっぱいいますけれども、それを生かし切れていないのが現状ではないかと思えます。市長の一言によって、おまえ行ってこいと言ったら、行くのです、職員。勉強してこいと言ったら勉強するのです。そうしていかなかったら形にならないと思うのですが、それでお願いできますでしょうか。もう一回お願いします。

○議長（佐々木慶和君） 福島市長。

○市長（福島弘芳君） ですから、それはさっき言いましたように、そういういいところだったらやはり行ってきて勉強してもらおうというようなことも考えております。

○議長（佐々木慶和君） 長谷川議員。

○4番（長谷川榮子君） いいことも悪いこともいっぱいあるのです。悪いことは学ばなくていいところだけ学んでくるように、出かけるときにそういうふうに指示してやったらよろしいかと思いません。

時間もありますので、次に進みます。円形劇場ですけれども、これまでの活用実績はありますかというふうに伺いましたら、いとも簡単に、ことしはありませんという答えでした。何か呼びかけたのでしょうか。

○議長（佐々木慶和君） 経済部長。

○経済部長（山内信昭君） まず、事業実施について経済部の中で検討して学校のほうへ問い合わせたわけなのです。そうしたら、高校なのですけれども、翌年度の授業については12月中にもう決まってしまうということで日程調整が付きませんでした。そのため利用実績がありませんでした。

○議長（佐々木慶和君） 長谷川議員。

○4番（長谷川榮子君） 何でもみんな予定があるから早目、早目でないと対応はできないと思いま

す。私はこれ去年の12月議会に取り上げているのです。そうしたら、1回ぐらいはやってもいいのでないかなというふうに思います。森田小学校の吹奏楽部、大変頑張っていて、せんだってジャスコに行きましたら、ジャスコのホールのところで行っていました。あれ、そんなに宣伝もしなくてやったのだと思いますけれども、でも始まったら大勢の市民が立ちどまって聞き入っておいりました。あの子たちの能力を生かしてあげるためにも、もっと応援してやりたいなとつくづく思ったのです。ふと思ったのが、やっぱり人が集まると子供たちもやる気というか、張り切ると思いますので、地球村で何かイベントがある、例えばスイカ・メロンフェスティバルでもいいと思うのです。11時からの開演時間を10時ぐらいにして、その1時間を子供たちに円形劇場のあの場所を使ってやってもらうとか、工夫したら何とかできるのではないかなと、これは私の考えですけれども、その辺のご検討もお願いしたいと思います。

○議長（佐々木慶和君） 経済部長。

○経済部長（山内信昭君） メロンフェスティバルには実行委員会がありますので、そちらのほうと協議して実施について検討していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

○議長（佐々木慶和君） 長谷川議員。

○4番（長谷川榮子君） それから、来年度は映画関係を予定しているそうですが、これはあくまでも予定でしょう。来年また同じこと聞きますので、計画しましたけれども、みんな没になってことしもゼロでしたという回答がないようにぜひ頑張ってくださいと思います。

ありがとうございました。終わります。

○議長（佐々木慶和君） 以上で長谷川榮子議員の質問を終わります。

ここで休憩します。11時15分から再開します。

休憩 午前11時03分

再開 午前11時15分

○議長（佐々木慶和君） 休憩前に引き続き会議を再開します。

◇ 田 中 透 君

○議長（佐々木慶和君） 第3席、2番、田中透議員の質問を許可します。

田中透議員。

〔2番 田中 透君登壇〕

○2番（田中 透君） 第3席を賜りました五和会の田中透でございます。通告に従いまして質問させていただきます。今回は私が所属させていただいております総務常任委員会の行政視察研修、消防署再編統合計画策定審議会の行政視察研修で研修させていただいたことの2点と、まちの活性化についての計3点の質問をさせていただきます。

まず、1点目でございますが、ふるさと納税制度は全国の各自治体で取り組まれており、スピード感を持って取り組まなければ、市が発信している情報が膨大な他の自治体の情報量に埋もれてしまう可能性がございます。インターネット上の市ホームページでいかにしてつがる市のすばらしさ、特産品のよさを見やすく、検索しやすくするかなど工夫する点があると思いますので、質問いたします。ふるさと納税寄附金によって得た財源は、主にどの程度、どのように活用されているのかお伺いいたします。

それから、2点目でございますが、消防署所再編についてでございます。高機能指令センターの進捗状況についてお聞かせ願います。

続いて、消防団員の処遇改善についてお伺いしたいと思います。

3点目でございますが、まちの活性化についてでございます。共通商品券の取り組みについてそれぞれお伺いいたします。

○議長（佐々木慶和君） 答弁を求めます。

福島市長。

〔市長 福島弘芳君登壇〕

○市長（福島弘芳君） 田中議員の消防団員の処遇改善について答弁したいと思います。

消防団は、地域防災体制の中核的な存在としまして、地域に必要な体制を整えることが期待されておりますけれども、地域人口の減少、特に若年層の人口の減少に伴い、全国的に団員確保には苦慮している状況下でございます。つがる市においてもここ5年は減少傾向でございます。消防団員は、災害時においては昼夜にかかわらず多岐にわたり活動し、または平常時におきましても地域に密着した活動を行っております。消防団員の処遇については十分に配慮し改善していく必要があるものと思います。今後消防団の充実、強化を進める上で活動環境の整備、特に消防団員の安全確保のための装備の充実も重要と考えています。団長からも、火災鎮火後において非常備消防、要するに消防団はその後の見回りなどで現場に足を踏み入れることもありまして、長靴ではくぎなどを踏み込んで負傷することもあることから、安全靴の配備するよう要望されているところでございます。

消防団の処遇改善につきましては、安全確保のための装備以外にも報酬、出動したときの費用弁償としての出動手当など、近隣市町並みの改善が必要であるというふうを考えています。今後これらを改善するためには財政負担を伴いますので、計画的に対応してまいりたいというふうに思っております。

それから、まちの活性化について、共通商品券の取り組みについてでございますけれども、10%のおまけつき共通商品券の販売については、合併以前の木造町から継続している事業でありまして、広く市民へ浸透しているところでございます。また、12日には2回目の商品券を販売する予定でありまして、本市では販売額の10%分に当たる総額1,000万円を市民に還元してございます。中には1

時間以内に完売となる地区もあるということで、市民の関心も非常に高くなってございます。今後も市民の消費、購買力の喚起を促しまして、市内事業者の経営安定に寄与していきたいと思っておりますので、どうかよろしく申し上げます。

○議長（佐々木慶和君） 倉光総務部長。

○総務部長（倉光弘昭君） 田中議員の1点目のふるさと納税についてお答え申し上げます。

ふるさと納税の寄附金は何に使っているかということでございますけれども、ふるさと納税のその寄附金のお願いに当たって、あらかじめ5つの分野に活用したいというふうにしていただいております。まず、1つ目が農業の振興、これが1つ目です。次に、祭り、イベントの充実に使いたいということでございます。次に、歴史的遺産あるいは文化財の保全、整備で使いたいということでございます。次に、観光の振興及び子育ての支援と、合わせて5つの分野に活用したいということでいただいたものでございます。もとよりその寄附金は善意による寄附金ですので、今一般財源として広く受け入れてこの5つの分野にその年度、年度で充当して活用していきたいというふうに考えてございます。

以上です。

○議長（佐々木慶和君） 山口消防長。

○消防長（山口一寿君） 私のほうからは、高機能消防指令センターの進捗状況についてお答えいたします。

高機能消防指令センターとは、24時間365日休まず119番対応し、消防車両の出動から活動終了までを統括管理するシステムですけれども、現在電源通信ケーブル等の配線工事、現在の指令室の改修工事が進行中です。今後ですけれども、各車両への車両動態システムの取り付け、指令設備の機器の取り付けなどを実施いたしまして、来年の1月上旬から1カ月程度かけまして職員が新指令台の操作方法や通報受け付けの訓練を行います。現在の指令台から新指令台の切り替えは2月8日を予定しております。工期は3月10日ですけれども、おおむね2月いっぱいをかけまして完了いたしまして、3月上旬には完了検査を受けた後、本格運用する予定です。現在の進捗率といたしましては約50%となっております。

以上です。

○議長（佐々木慶和君） 田中議員。

○2番（田中 透君） 私たち総務常任委員会では、視察研修に出向く前に総務課の担当者に出席をしていただき、所管事務調査を実施いたしました。現在の状況などを確認し、寄附金の実績に対する返礼品の割合等も確認いたしました。今回視察してきました市では返礼品と送料でおおよそ5割程度寄附金を活用しておりました。また、膨大な情報量に埋没しないよう比較的検索、調べやすいインターネットサイトを探して運営する業者に委託し、ふるさとの風景の動画なども配信しインパクトのあるホームページにしておりました。また、昨年8億の寄附金の実績があった市の主な取

り組みとして、議運の了解を得て配付しております資料にある「ふるさと体験パック」という、比較的安価な返礼品に市の各種施設の割引券、クーポン券を同封し詰め合わせたものを金額別の返礼品とあわせて発送しておりました。また、地元にある大手デパートの協力を得て商品カタログにふるさと納税をPRするページを設けていただくなどして全国へ発信したりしておりました。

そこで、次の点についてお伺いいたします。ふるさと納税していただいた金額の5割程度を地元特産品の購入費に充てることで、地元農家の所得向上に幾らかでもつなげられないか。そして次に、市のホームページをもう一工夫したり、インターネットのさらなる利活用、地元のショッピングモール、商店などの協力を得るなどして取り組んではどうか。

あと、もう一つは、事例に挙げたふるさと体験パックのような市のPRや市への訪問する機会を与えるようなパックをつくってはどうか、お伺いいたします。

○議長（佐々木慶和君） 総務部長。

○総務部長（倉光弘昭君） 2回目の質問で3点ほどご質問いただきました。

還元率を上げて農家の所得に寄与してはどうかということでございます。現在市では今2割程度の還元率になっています。送料を含めれば約3割と、実質その農産物を返礼品で送った場合は2割程度が農家のところに入るということになってございますけれども、当然一般財源ですから農家の方の所得も上げつつ市の5つの分野に充当するというのであれば、それが7割、3割あるいは6割、4割、どれが妥当かというのはこれから検討して、少しでも農家の方の所得にあわせて寄与できればというふうに考えてございます。ただ、その返礼品が農産物とすれば、申し込んだはいいが品物は来ないというようなことがないようにその供給体制、仮に全員がメロン欲しいと言った場合には当然できないわけで、その供給体制を幾らぐらい確保できるかと、そういうことも見きわめて検討していく必要があるし、農家の所得向上には寄与していきたいというふうに考えてございます。

それから、ホームページの工夫でございますけれども、今現在の市のホームページのほうには載せてはいますけれども、利用者の方からわかりづらい、見づらい、なかなか情報が即検索できないというような苦情も承っておりますので、早急にホームページのリニューアルを考えています。来年度の当初予算には要求するつもりですけれども、その辺また3月の定例会のときにご議論いただきたいというふうに考えてございます。

それから、ショッピングモールとのその提携ですけれども、幸い本市にはイオンさんがありますので、イオン系列で定期的にその販売ができないか。例えばイオン系列で品物を受け取るとか、そういうふうなこともこれから相手方と交渉に入っていきたいというふうに考えてございます。

3点目のプラスアルファのパックをつけてはどうかということでございますけれども、現在その返礼品のほかにふるさと体験パックということで、メロンやリンゴの収穫の体験ツアーも返礼品として組み入れてございます。いますけれども、さらに一步踏み込んで市内の温泉施設の無料利用券あるいは宿泊券、定期観光ツアーバス、こういうものも絡めてもっとPRをしていきたいというふ

うに考えてございます。

以上です。

○議長（佐々木慶和君） 田中議員。

○2番（田中 透君） どうもありがとうございます。返礼品の関係で私も6次産業化のことで質問する予定でありましたけれども、先ほど長谷川榮子議員の質問に、市長が前向きに取り組んでいくということでお答えありましたので、この質問は割愛させていただきたいと思います。

最後に、返礼品にはやはりつがるブランドであります8品目を重点的に使用していただき、特に高額納税者については旬の農産物を二、三回に分けて、今のところ見ますとメロン3箱とか、リンゴ4箱とか、そういう形ではありますけれども、やはり小分けにしてメロンとリンゴジュースあるいは米、リンゴ、それらにゴボウあるいは長芋、野菜詰め合わせたような、そういう形での発送も考えてはどうかと思います。

そしてまた、体験パックの関係でありますけれども、これにつきましてはやはり青森で一番早いねぶた祭りとか、つがる市の一大イベントであります馬市まつりに合わせるとか、あるいは隣のまちではございますけれども、全国的に有名になった立佞武多にあやかってもいいので、とにかくつがる市へ足を運んでいただくような企画を組んでいただき実績を伸ばしていただきたいと。

そしてまた、5つほどの分野に分かれて使用のあるということでもありますけれども、農業活性化あるいはブランドの強化、まちの活性化にも大いに活用していただきたいと思っておりますので、どうかご検討していただければと思います。これでふるさと納税の質問については終わりとします。

次に、消防署所再編等についての高機能消防指令センターの進捗状況についてであります。ただいま消防長のほうから現状50%ということでご説明いただきました。我々も今回各地の指令センター視察してまいりました。本当にすばらしい、絶賛いたしました。どうか操作方法、通報受け付けを熟知し、一日も早く市民の生命と財産を守るべく活動して下さるよう、よろしくお願い申し上げます。

次に、市長より答弁のございました消防団員の処遇改善についてであります。当然消防署所再編となりますと消防団員が必要不可欠であります。私も20年ほど消防団員の経験がありますが、確かに鎮火後の見回り、あるいは遭難者の捜索などで山の竹やぶとか捜査する際は安全靴が必要と思います。ぜひお願いしたいと思います。また、団員の待遇は特に青森県は他県より劣っていると思います。報酬等も一度にはできないと思いますが、せめて出動手当の見直しは前向きに検討していただきたいと思います。消防団員の処遇改善することで団員確保にもつながると思いますので、何とかよろしく願いいたします。現在消防団員減少の中で当市は県内的にどのような状況なのか、また団員の年齢別人員はどうなっているのかお伺いいたします。

○議長（佐々木慶和君） 消防長。

○消防長（山口一寿君） 田中議員の2回目のご質問にお答えします。

まず、団員数の状況ですけれども、10月の現在で団員数調査がありましたけれども、まだ県内的な状況調査が来ておりません。昨年のデータを見ますと、弘前市が1,983名、青森市が1,823名、八戸市が1,354名、次につがる市が1,268名となっております。ことしの4月の現在では55名ほど減少しておりますけれども、県内では4番目に多い消防団を確保している状況となっております。

次に、団員別の年齢別ですけれども、20歳までの登録人員はございません。29歳までで見ますと112名の全体の9.2%、39歳までで520名、42.9%、49歳まで957名、78.9%、59歳まで1,196名、98.6%となっております。60歳以上についても17名おります。平均年齢で見ますと41.6歳となっております。

以上です。

○議長（佐々木慶和君） 田中議員。

○2番（田中 透君） 今回の視察先では、当市もそうですけれども、特に少子高齢化に伴い消防団員の確保にどの地区も苦慮いたしておりました。中には二、三人しかいない分団もございまして、なかなか活動できない地区もあると聞いております。今のご説明で当市が県内で4番と、それも聞いてみれば20万都市と肩を並べているということは、当然人口割からいきますと県内ではトップだと思います。ここまで防災に対して協力的な団員が多いわけでありますから、なおさら前向きに処遇改善をよろしく願いいたします。

続きまして、最後の活性化に伴う共通商品券の取り組みについてであります。市民の皆さんも生活防衛手段として共通商品券の販売を首を長くして待っているのが本音であります。特に昨年の20%のプレミアム商品券はすさまじい勢いで、短時間で販売完了したと聞いております。また、ことし1回目の販売もあっという間に売り切れてしまったと聞いております。これほどの経済効果をもたらすイベントはほかにないと思います。市長の答弁にもございましたけれども、少しでも市民の消費、購買力の環境を促し、市内事業者の経営安定を重視していく、これが今現状の中で何をおいても先決かと思えます。そこで、ことしいち早く隣の町で1億の商品券の取り組みを実施すると新聞紙上に掲載されました。当市から見ますと、人口約3分の1ほどの町が即打ち出したということは、それだけの経済効果、活性化を見込んでのことだと思えます。つがる市で新年度はいち早く要望額、あるいはそれに近い額を打ち出してPRできないものかお伺いいたします。

○議長（佐々木慶和君） 経済部長。

○経済部長（山内信昭君） 田中透議員の2回目のご質問にお答えします。

ことしの春に国の補正予算で昨年のようなプレミアムつき商品券の発行が予定されていたわけなのですけれども、それで経済部としても大きな期待を持っていたのですけれども、参議院選挙後このメニューがなくなりました。これにより今年度当初予算で850万円計上していましたがプレミアム商品券発行支援事業につきましては、9月議会で150万円を追加し、先ほど市長が答弁いたしました1,000万円として1億円のプレミアム商品券を発行することにしております。平成29年度の要望額に

つきましても、財政部局と協議いたしまして前向きに検討させてまいりたいと思いますので、よろしくをお願いします。

○議長（佐々木慶和君） 田中議員。

○2番（田中 透君） 多分財政絡みますので、前向きに検討という答えしか返ってこないと前もって感じておりました。とにかく第2次つがる市総合計画の中にも、中心商店街の活性化の中でうたっておりますので、財政部長、前向きにご検討よろしくをお願い申し上げます。

最後に、まちの活性化についてはいろいろな難題も山積みしておりますけれど、基幹産業であります農業の活性化はもちろんのこと、商工業圏ゾーンである木造商店街、イオンモールつがる柏を中心とした整備が必要不可欠であります。まちの活性化を進めていくためにも市長には手腕を振っていただき、県、国へ出向いて補助金、助成金をつがる市へ交付させるよう強く望み質問を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

○議長（佐々木慶和君） 以上で田中透議員の質問を終わります。

ここで昼食のため休憩します。午後1時から再開します。

休憩 午前11時43分

再開 午後 1時00分

○議長（佐々木慶和君） 休憩前に引き続き会議を再開します。

◇ 齊 藤 渡 君

○議長（佐々木慶和君） 第4席、1番、齊藤渡議員の質問を許可します。

齊藤渡議員。

〔1番 齊藤 渡君登壇〕

○1番（齊藤 渡君） 第4席、1番、無所属の齊藤渡です。質問に先立ちまして、次の2点について確認をさせていただきます。今回の質問は通告表にも記載されているとおり、稲わらの利用に関する内容となっております。稲わらに関する質問は以前から当議会において何度もしてきたわけですが、今回は先進地の事例とつがる市の現状を比較しながら、当市においてコンスタントに利用可能な稲わらの賦存量と、その客観的な経済評価、つまり稲わらの価値を金額換算した場合どの程度になるのかという点を明らかにしたいと思います。その上で今後当市において何がどのくらいできるのかを検証してまいりたいと思います。

また、議運の許可を得ましてお手元にお配りした資料は、北海道の南幌町における稲わらの熟利用に関する取り組みについて、南幌町役場のまちづくり課企画情報グループが作成したものであります。あらかじめお断りしておきますが、南幌町の考え方に私個人の見解が介在するのを防ぐために資料は原本そのままを使用しております。なお、当議会においてこちらの資料を使用することに

つきましても、南幌町の担当課の許可をいただいております。ちなみに、私が南幌町を訪れたのは先月の11月の15日です。以上のことを踏まえた上で本題に入らせていただきます。

まず、1点目の質問であります。ことしの稲わらの収集状況についてお伺いをいたします。ことしの稲わら収集は、10月下旬からの連日の降雨によって例年の七、八割程度にとどまっているように感じております。ことしの秋の天候は、典型的な日本海側特有の天候であり、寒冷積雪地帯における稲わら収集の難しさが顕著にあらわれたとっております。しかしながら、畜産農家を初め、収集業者の長年の経験やノウハウによって耕畜連携分の稲わらの収集に関しては大半が終わったように感じております。そこで、ことしの稲わら収集に関して飼料用米の耕畜連携分として収集面積を前年度比で、また稲わらの収集に伴う補助金の総額も前年度比でお知らせ願います。

次に、2点目の質問に入ります。稲わらを利用した地域循環システムについてですが、これは配付したこちらの資料の流れに沿って説明をした後質問をさせていただきます。なお、時間の関係上説明は最小限にとどめさせていただきます。お手元の資料の1ページをお開き願います。北海道の南幌町の概要という形になっております。南幌町は札幌市のベッドタウンでございます。平成2年には5,000人余りの人口でありましたが、平成10年10月には人口が1万人を突破し、ことし4月1日現在は7,891人と減少傾向にございます。札幌は最新の数値によりますと194万7,000人の人口があります。青森県1県は10月1日付の人口で129万3,681人、青森県全体よりも札幌は大きいという形になろうかと思っております。南幌町の特徴といたしましては、最後の段、総面積81.36キロ平方メートルのうち水田が65%を占める純粋な農業地帯です。

ページを飛ばしまして3ページをお願いいたします。3ページには表が2つ掲載されてございます。上の表は稲わらの最大利用可能量を示したものの、下の表は最少利用可能量を示したものになります。特筆すべき点におきましては、南幌町では秋及び春に稲わらを水田にすき込むことが慣例になっております。しかしながら、南幌町は泥炭土壌でありまして、すき込んだ稲わらがメタン発酵をして稲作の生育後半に非常に悪影響を及ぼすとともに食味を低下させる一因になっている、このような報告もございます。そうしたことで、すき込み以外の用途を町が全力を挙げて探し始めている。このような状態であります。

また、ページを飛んでいただきます。4ページをごらんください。たくさん稲わらがあるので何に使用するかという話の中で、農業ハウス、役場、温泉、この中でなんぼろ温泉に使うのが一番量的にベストではないか、そのような結論に至っているそうです。

続きまして5ページなのですが、ちょっと写真が白黒になると見づらいのですが、もともと粗飼料として集めていたものをペレットの熟利用に使うという観点から、わらの収集業者は書いてありますとおり組合が存在しております。7戸の農家及び法人が稲わらの収集、運搬、搬入まで行っております。

6ページをごらんいただきますと、どうやってペレットをつくるのかというのを簡単に書いてお

ります。直径120センチのよく田んぼで見かけるロールをおばさん2人が人力によってばらしまして粉砕カッターに入れてペレットを製造している。こういう作業の流れになっております。

ここで1つ確認なのですが、7ページなのですが、なんぼろ温泉のペレットボイラーの設備概要、この稲わらを燃料にしたボイラーというのは全国的にも例がございません。ただし、稲わらだけを燃やすと灰の処理が大変なので、ここの温泉では木質ペレットと稲わらペレットを半々の割合で燃やしております。燃やしたのはお風呂を沸かすのではなくて洗い場のシャワー及びカランのお湯に使っているそうです。

最後に、8ページになりますが、そこに地域循環システムという形でサイクルを図にして掲載しております。先ほど申し上げましたが、9ページには稲わらのペレットと木質のペレットを50%の割合が望ましいという旨が書いてあります。

以上が資料の説明になるわけなのですが、10ページ以降はペレットのボイラーの燃焼効率の比較とか、あるいはコストの比較、ペレットの使用上の課題などなので説明は割愛させていただきます。

もう一度恐縮ですが資料の8ページにお戻りいただきます。南幌町では地域で生産された米の残渣である稲わらを地元の企業が燃料に加工し、地元の公共施設において燃料として利用し、その恩恵を地元の地域住民が享受するというサイクルが完成されております。このように地域内の資源を地域内で加工、利用することによって物、金が地域内で循環するシステムが構築されております。そこで、この質問はぜひ市長にお答えいただきたいのですが、新しい雇用の創出は若者の地域内への定住化を促すものであり、地域活性化のためにまさに車の両輪のようなものでございます。このことは今後のつがる市の人口維持と地域の発展にとって不可欠な要素であると考えますが、市長のお考えをお聞かせ願います。

以上で1回目の質問を終わります。

○議長（佐々木慶和君） 答弁を求めます。

福島市長。

〔市長 福島弘芳君登壇〕

○市長（福島弘芳君） 齊藤議員の質問にお答えします。

稲わらの活用についてでございますけれども、つがる市におきましては稲わらの焼却防止、これの観点から圃場へのすき込みや畜産の飼料など有効活用を推進しているところでございます。また、稲わらの新たな有効活用が可能であれば、先進地事例などを確認しながら取り組んでいきたいと考えておりますけれども、今のこの例でいきますと温泉や何かの熱にかえているというようなことでございますけれども、そのほかに温室のハウス、これなどにはいいかもわかりませんが、ご存じのように温泉いっぱいございますので、そっちのほうはちょっと無理だと思いますけれども、何かまたそれにかわるものがあれば、また取り組んでもいいのではないかなというふうに考えております。

○議長（佐々木慶和君） 経済部長。

○経済部長（山内信昭君） 齊藤渡議員のここの稲わらの収集状況についてのご質問にお答えいたします。

稲わらの収集状況であります、ここの収集面積は耕畜連携分で911万4,003平米、前年比で101%となっております。

2点目の稲わら収集によって得られるここの補助金の総額は1億1,836万6,300円、前年比で101%となっております。

○議長（佐々木慶和君） 齊藤議員。

○1番（齊藤 渡君） ありがとうございます。今市長からは、つがる市は温泉がいっぱいあるのでその必要はないと言われると確かにそのとおりに感じます。可能性としては温室など冬期間の冬の農業に何らかの形で生かしていければいいか、こういうふうな考えになっております。経済部長のほうからは、つがる市における稲わらの収集能力、これはヘクタールに直すと約911ヘクタール、金額ベースで約1億2,000万弱と今お答えがありました。以上のことから、つがる市にはアイハブア稲わらなのです。こちらにアイハブア1億2,000万の価値があるわけです。ウンツと合わせると1億2,000万円の稲わらのビジネス、これが考え次第では可能になるのではないかと、このように考えております。そこで、再質問に入らせていただきます。再質問は全部で3つございます。

まず、1点目の質問ですが、資料の18ページを再びお開き願います。資料の18ページには平成28年度の取り組みと書いていまして、一番上の段、3、燃焼灰の販売及び販売体制の構築とございます。ボイラーから排出される燃焼灰は肥料として販売されているわけですが、この焼却灰、法的には産業廃棄物扱いでございます。処理するためには費用がかかるという問題が指摘されております。そこで、そもそも論になってしまうのですが、圃場における田んぼにある稲わらは廃掃法、正式名称、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、これでは一般廃棄物に該当するのか産業廃棄物に該当するのか、市としての見解を伺います。

○議長（佐々木慶和君） 経済部長。

○経済部長（山内信昭君） 齊藤議員の2回目のご質問にお答えします。

稲わらは産業廃棄物か一般廃棄物のいずれに該当するかというご質問ですけれども、稲わらは事業系の一般廃棄物となります。

○議長（佐々木慶和君） 齊藤議員。

○1番（齊藤 渡君） 事業系の一般廃棄物、ちょっとウィキペディアというネットの資料で調べますと、一般廃棄物は事業系であれ何であれ一応市町村の責任で処理する旨が書いてありますが、ただその附帯の条約でみずからが処理する場合は云々という例外もあったように感じていましたので、恐らくこの場合はその例外に該当するのではないかと、このように感じておりました。

次に、2点目の質問なのですが、稲わらの収集の今後の見通しに関する質問であ

ります。ご承知のとおり、平成30年度に国の減反政策が廃止となります。飼料用米の制度は今後も継続していくと以前質問した際に答弁で聞いた記憶がございます。しかし、仮に飼料用米及び耕畜連携による稲わらへの補助金が減額された場合、今の収集状況を維持していけるのか。また、補助金の減額及び廃止によって稲わらの焼却処理が再びまたふえることがないのか、この点につきまして市の見解を伺います。お願いします。

○議長（佐々木慶和君） 経済部長。

○経済部長（山内信昭君） 補助金が減額された場合、今の収集状況を維持していくことは可能かという質問なのですけれども、畜産農家は飼養頭数分を確保するために飼料用米、食用米にとらわれず収集すると考えられます。しかし、販売を目的としている収集業者は補助金が減額された場合は面積を縮小するものと思われます。続きまして、またそれによって補助金が減額されることによって焼却処理が再びふえるのではないかというご質問なのですけれども、稲作農家が何らかの形で収集業者へ委託している場合、補助金の減額により委託できなくなり焼却処理面積が増加するものと考えられます。

○議長（佐々木慶和君） 齊藤議員。

○1番（齊藤 渡君） 今の経済部長の答弁によりますと、金の切れ目が縁の切れ目ではございませんけれども、場合によっては今後ますます担い手の不足の問題であったり、いろんな問題で焼却がふえる可能性があるのではないか、そのような答弁であったと思います。ぜひそうならないように何か智恵を絞って有効活用する方法を考えたい、このように考えております。

最後に、3つ目の質問です。現在稲わら収集は主食用米、飼料用米の両方で行われております。出荷の都合上、飼料用米の刈り取りは主食用米の出荷が終わってからとなっております、刈り取りに時間差が生じております。物理的に考えて早く刈り終わる主食用の稲わらを飼料用米の稲わらの代替として出荷することはできないものか、これも市としての見解を伺いたいと思います。お願いします。

○議長（佐々木慶和君） 経済部長。

○経済部長（山内信昭君） この耕畜連携分につきましては、あくまでも飼料用米の稲わらでなければ補助金は受けることできません。

以上でございます。

○議長（佐々木慶和君） 齊藤議員。

○1番（齊藤 渡君） あくまでも飼料用米の稲わらに限定する。減反政策が終わったときに果たしてその制度があるかどうか、その辺も含めて今後の推移を見守っていききたい、このように考えております。

以上、稲わらに関して南幌町の事例を踏まえて多角的な視点で比較検討を行い、つがる市としましての見解も得ました。

最後に、考え方の整理を行います。稲わらの収集が粗飼料利用だけという視点だけでは、天候による収集の不確実性や季節性という課題が生じます。そこで、南幌町における熱利用という新たな視点を加えることによって、粗飼料の需給バランスを量と質の両面から調整することが可能になりそうな感じがしております。具体的には、つがる市においては主食用米で早く刈り取った乾燥状態のよい稲わらを熱利用用に貯蔵することによって、粗飼料の品質が悪いときは代替として乾燥状態のよい稲わらを出荷し、品質が逆に悪いときは熱利用に回すという仕向け先の変更も可能となるわけなのですが、先ほどの答弁で稲わらの主食用米から飼料用米への転換は難しいという話でしたので、ここには少しまだ一考の、考える余地があるかと思えます。いずれにいたしましても、繰り返しのようになりますが、水田地帯のつがる市においては稲わらの処理は永遠のテーマです。飼料用米と稲わらの収集にまだ2年間補助金がつきます。今のうちから対策は講じておくべきではないかと考えます。そこで、いま一度稲わらの熱利用をもとにした地域循環システム、この構築を切に要望して質問を終わらせていただきます。

ご清聴大変ありがとうございました。

○議長（佐々木慶和君） 以上で齊藤渡議員の質問を終わります。

◇ 三 上 洋 君

○議長（佐々木慶和君） 第5席、9番、三上洋議員の質問を許可します。

三上洋議員。

〔9番 三上 洋君登壇〕

○9番（三上 洋君） 第5席を賜りました芳政会の三上洋です。障害者差別解消法についてご質問いたします。

2006年12月、障害者権利条約が国連でつくられまして、これは障害者のために新しい権利をつけた条約ではなく、障害者が社会の一員として尊厳を持って生活することを目的としております。日本では、2012年、内閣府の障害者政策委員会のもと差別禁止部会で意見がまとまり、2013年6月19日、国会において障害者差別解消法が成立しております。ただ、障害者の社会参加を妨げるたくさん課題が山積みでありまして、障害者や家族、関係者が諦めてしまう場合も多くあるのが現状であります。ガイドラインの作成や広報啓発などの準備をして、2016年4月1日から施行され今に至っております。そこで、次の3点についてご質問申し上げます。

1点目は、対応要領はできているのか。

2点目は、会社など事業者向けの指針はできているのか。

3点目、各関係機関への周知はできているのか。

1回目の質問終わります。

○議長（佐々木慶和君） 答弁を求めます。

境福祉部長。

○福祉部長（境 宏君） 三上洋議員のご質問にお答えいたします。

この4月から議員ご指摘のように障害者差別解消法、正式には障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律、これが施行されました。これを受けまして、つがる市役所でも全職員を対象としました障害を理由とする差別を解消するためのつがる市職員対応要領、これを9月に策定いたしました。10月1日より施行しております、これは職員の庁内ネットワークを通じまして各職員に通知しているところでございます。なお、今後この制度の普及や啓蒙のため職員研修を実施する予定でございます。

2番目の会社など事業者向けの指針はできているのかというご質問でございますが、これにつきましては各事業所を所管いたします国の省庁、これが対応指針を作成し、それに基づきまして事業者は自主的に障害者の差別解消に向けて取り組むこととなっております。

それから、3点目、各関係機関への周知はできているのかというご質問ですが、これにつきましてはこの制度内容を市のホームページなどを活用いたしまして今後普及に努めてまいりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

○議長（佐々木慶和君） 三上洋議員。

○9番（三上 洋君） 2回目の質問に入らせていただきます。

法律の文言というのは非常に難しく理解できないのですけれども、不当な差別的取り扱いの禁止とはどのようなことを指すのか。

2点目として、合理的配慮の提供とはどのようなことを指すのか。手話、点字、筆談のできる職員はつがる市では何名いるのか。

2回目の質問終わります。

○議長（佐々木慶和君） 福祉部長。

○福祉部長（境 宏君） それでは、2回目の質問3点ほどございますが、お答えさせていただきます。

1点目の、不当な差別的取り扱いの禁止というのはどういうことかということでございますが、国、県、市町村の役所、会社や店舗などの事業者が障害のある人に対して、正当な理由がないのに障害を理由として差別することを禁止しているということでございます。また、正当な理由がある場合は、その理由を説明して理解を得るように努めることが大切であるというふうになってございます。

2点目の、合理的配慮の提供でございますが、これは障害のある人から社会的障壁の除去の実施を求められたとき負担が重過ぎない範囲で対応すること。また、事業者に対しては対応に努めることとなっております。また、重過ぎる負担があるときでも別のやり方の提案を含め、話し合い、理解を得るよう努めることとなっております。いずれにしましても、障害を理由に門前払いほしない

で、話し合いをしながらお互いの理解を求めていくことがこの法律の要点であるというふうに理解してございます。

3点目の、手話、点字、筆談等できる職員はいるのかということでございますが、手話通訳者につきましては市役所福祉課に常勤を1名配置してございます。そのほか需要によりまして登録者が市内外に8名おりまして、市内で足りない場合あるいは市外で必要となった場合には対応してございます。それらの主な利用の機会といたしましては、病院での診察の対応あるいは官公庁での各手続の際の意思疎通などが主な場面でございます。平成27年度におきましては229件の利用がありました。また、点字につきましては、目に障害を持っている方が利用しておりますので、その方たちは耳が聞こえますので意思疎通はおおむね可能であります。ただ、目に障害を持っている方のためには、市の広報紙と議会だよりを読み上げて、それをテープに録音いたしまして配付しているという事業もございます。これは現在3名の方が市内では利用されております。筆談につきましては、耳の障害を持った方には意思疎通、手話通訳がいなかったりというときもございますが、そういった場合には職員が筆談で対応させていただいております。

以上でございます。

○議長（佐々木慶和君） 三上議員。

○9番（三上 洋君） ここに法律が禁止する差別というのを何件か持っています。お知らせしますので。それまで利用していたインターネットカフェが、その人に精神障害があるとわかった途端、店の利用を拒否された。これが1つの事例です。聴覚障害のある人がひとりで病院を受診したとき、筆談のための時間がとれないとの理由で、手話通訳の派遣の依頼もせず受診を断られた。このような事例もございます。盲導犬を連れた人が、動物は店にいることができませんという、レストランの入店を拒否されたというような事例もございます。そして、これは東奥日報2016年11月4日の東奥春秋に書かれていたメッセージです。かつてバス停に取り残された経験がある。これは筋ジストロフィーを患っている方で、車椅子で生活していて、バス停に取り残されたら、このような事例もございます。そこで、手話、点字、筆談のできる職員の方はいるとは言っておりますけれども、やっぱり本当に障害者の目線に立つには、障害者施設に職員を派遣して、そして1日なり2日なりその障害者を介助しなければ障害者目線まで下がることはできませんので、何とかその辺、福祉部長、まず考えてほしいと思います。そして、障害のある人が不当な差別的取り扱いを受けたり、合理的配慮を提供してもらえなかった、困ったことがあった場合の相談窓口は福祉部しかないのか。

2点目として、小中学生に対しての周知、指導、これはどのように考えているか。

それから、前段の長谷川榮子議員と同じ委員会に属しておりまして、茂木町まで行ってまいりました。たまたま茂木町議会だより、これをもらってきております。これは6月の定例会の議会だよりです。この中に女性の議員の方が、ことし4月からの法施行に伴い各関係機関の周知はという質問に対して、当時の町長は、当法施行は早い段階から障害者に対する適切な合理的配慮が提供でき

るよう準備を進めてきました。3月にはこれに関する対応要領を制定し運用しています。今後関係機関と連携し、あらゆる場面を通じて普及啓発に努めますとあります。それなのにつがる市で、職員対応要領としてこれを手に入れたわけなのですが、何で10月まで遅くかかったものなのか、その要因というもの、これまずお聞かせください。

○議長（佐々木慶和君） 福祉部長。

○福祉部長（境 宏君） 三上議員の3回目の質問、何点かございますが、私のほうからは3つほど答えさせていただきます。

まず、職員を施設のほうに派遣してそういった障害者の方の実態あるいはこういったことに困っているのかということを検証してはどうかということでございます。市のほうで職員採用時いろんなところに研修にやりますし、また採用後も何年かごとにいろんな研修ございます。直接我々のところは研修担当ではございませんけれども、こういったことを踏まえまして必要であるというふう判断できると思いますので、総務のほうと協議いたしまして今後考えていきたいと思っております。

また、担当窓口は福祉課だけですかということでございますが、今議員もお示しいただきましたけれども、職員対応要領、この中にもございますように、いろんな場面でそういった障害者、困ったことが発生すると思っております。その都度対応できるようにこの対応要領を職員に再度周知し、また先ほども申しましたが、職員対象にしました研修等でそういったことについては周知していきたいと思っております。

そしてまた、4月に施行した法律に対して何で10月までかかったのかということでございますが、これは確かに4月には施行になったのですが、その後各県あるいは各市のほうにこういったことに対する要領をつくりましょうということで、いろいろ我々もそういった他市あるいは他県の状況を確認いたしまして策定した状況でございますので、これは年度内に作成するということが求められてございましたので、10月に施行したということでございまして、決して怠っていたわけではございません。よりよいものをつくらうということで、内部で協議した結果、この時期になったものと理解していただければ幸いです。

私のほうからは以上でございます。

○議長（佐々木慶和君） 木村教育部長。

○教育委員会部長（木村好秀君） 小中学生の指導ということで、教育委員会のほうでは昨年8月から11月、毎年学校計画訪問というのを行ってございまして、全小中学校、全教員に対して今回の施行に当たり十分周知徹底ということで指導しております。また、児童生徒に対しましては、特段この法律関係なく、障害のあるなしにかかわらず、道徳教育を通じて親切、思いやり、感謝、友情、信頼、命のとうとさなどを自己の生き方について深める学習で指導しております。

以上でございます。

○9番（三上 洋君） どうもありがとうございました。

○議長（佐々木慶和君） 以上で三上洋議員の質問を終わります。

ここで暫時休憩します。1時55分から再開します。

休憩 午後 1時42分

再開 午後 1時55分

○議長（佐々木慶和君） 休憩前に引き続き会議を再開します。

◇ 松 橋 勝 利 君

○議長（佐々木慶和君） 第6席、18番、松橋勝利議員の質問を許可します。

松橋議員。

〔18番 松橋勝利君登壇〕

○18番（松橋勝利君） それでは、通告順に従いまして一般質問を行います。第6席、松橋勝利です。今回の私の質問は、第1点目に農業問題について、これは野菜の種苗購入費について、これは農家の所得向上のために野菜の種苗購入に助成制度を設けてはどうか、こういうことであります。2点目に人口減少対策であります。これは今後のつがる市について、10年後のつがる市の現状はと、こうあります。それから、どのようなこの人口減少対策を講じているのか、また新たな対策は考えているのか、こういうことであります。

まず、農業問題の野菜の種苗購入費について、これは非常に我がつがる市は農家が多い、農家が基本のつがる市であります。そういう点からいって農家が元気にならないとこのつがる市は絶対豊かにならないのだ、私はこういう強い信念を持っております。そういう点で行政としてやはりこの農家にもっともっと力を入れてほしい、そういう点から今回のこの質問になったわけであります。それと、何人かの農家の方々が私のところに来て、稲作農家、畑作農業やってもなかなか収益が上がらない。今の農業は非常に機械とかいろんな問題に金がかかり過ぎる。苗も買わなければいけない。種も買わなければいけない。こういうことの点でなかなか農家の所得が向上されない。そういうことで私、にしきた農協の富范支店の種苗の購入費を調べてきたわけではありますが、富范支店1点にしても2,332万七千幾らと、これだけの種苗を買っている農家、富范支店だけで。私のほうで考えてみますと、つがる市全体でいけば私の予想では1億円を超えているのではないかなと、こういう予測も立てておる。そういう点で、ここの資料ではゴボウ、大根、バレイショ、ニンニク、ナガネギ、カボチャ、ニンジン、ブロッコリー、いろいろあるわけけれども、そういう点で何とかして市のほうでこれに助成制度を設けてもらいたいと、これが第1点の要望であります。これについてまず答弁をお願いしたいと、こう思っております。

それから、次の人口減少対策でありますけれども、これは私今ここで資料も持っていますけれども、22年から2年ごとにこの人口減少対策をどうするかということを質問してきました。ここにあ

ります。2年ごとに。ということは、つがる市はこれだけ人口減っていく、将来どうなるか、こういうことを考えれば質問しないでいられない。そういう点でこれだけ質問しているわけでありますので、この10年後のつがる市の現状、それから新たな対策等あるとしたらお答えをいただきたい。

○議長（佐々木慶和君） 答弁を求めます。

福島市長。

〔市長 福島弘芳君登壇〕

○市長（福島弘芳君） 松橋議員の質問にお答えいたします。

第1点目の野菜の種苗購入費について助成制度を設けてはどうかという質問でございますけれども、野菜の種苗購入などにかかわる助成制度は現在、議員も言われましたようにJAの、今はにじきたでございますけれども、トマト、ニンニク、長芋、アスパラガスなどの指定作物を作付し、一定の要件を満たしたものに対して支援を行っております。市といたしましては、野菜などの種苗にかかわる支援制度創設、これを国、県に対して強く要望するとともに、市単独での補助も検討していきたいというふうに考えております。

それから、第2点目の人口減少の対策についてでございますけれども、10年後のつがる市の現状は、これは初めに現状について説明いたしますと、本市における平成28年4月期の人口は毎年減少傾向が続いておりまして3万4,101人というふうになっておりまして、合併時の4万422人から6,321人の減少となっております。人口減少には、死亡者数が出生者数を上回る自然減と、転出者が転入者を上回る社会減がございますけれども、本市におきましては平成17年より11年連続自然減となっております。平成27年度までの11年間の出生者数は2,407人、死亡者は5,711人でありまして、自然減は3,304人となっております。このことから、本市の人口減少は少子高齢化の進行と、進学あるいはまた就職に伴う転出者の増加など社会環境の要因により起こっているものと考えられます。このような状況から、10年後の平成37年時点での人口推計をつがる市人口ビジョンから推察してみますと2万9,565人となりまして、平成28年4月期に比べ4,536人の減少と推計されます。

次に、どのような対策を講じているか、新しい対策は考えているのかについてお答えします。前段の申し述べました状況を踏まえて、人口の急激な減少、超高齢化に対応するため、まち・ひと・しごと創生法が制定され、国と地方による地方創生が本格的に動き始めてございます。特に減少対策につきましては非常に重要な問題と捉えていることから、これに歯どめをかける施策が急務となっております。本年1月に策定しました市地域活力創生総合戦略、これにおいて示しておりますように現状分析や課題の絞り込みを行い、人口減少に歯どめをかけるべく戦略期間の5年間において集中的な取り組みを行うことにしてございます。施策の体系としては4つの基本目標を定め、推進施策34事業には全て業績評価指標を設定しまして、指標に対して各年度にどれだけが達成できたのかを検証、評価を行いまして、さらに踏み込んだ施策の推進に努めることにしてございます。一例をお示しいたしますと、基本目標の一つである魅力ある就労、雇用の場を創出することに関して

は、本市の喫緊の課題である農業振興を図るため農産物の高付加価値や6次産業化、担い手や新規就農者の確保に努めてまいりたいというふうに思っております。

また、希望する結婚、出産、子育ての部分では子ども医療費助成制度や、保育園や幼稚園における第2子無料化、高額な不妊治療に悩む市民への助成、産後1カ月健診の無料化など、出産あるいはまた子育てに関しては従前からの手厚い施策の継続に努めていくとともに、さらなる充実を検討してまいります。結婚を希望する独身男女の結婚支援としては、出会いの場の創出など計画的に開催し、出会いの機会の拡大を図っております。ほかの市町村と同じような事業を展開しても成果が余り期待できないのではないかとこの声もお聞きするわけですが、つがる市型の総合戦略を着実に実行して成果を出していくことが、私どもに求められている責務というふうに考えているところでございます。

今後ともさまざまな施策を展開し、状況を見据え、効果的な人口減少対策に努めて、つがる市人口ビジョンの2060年、要するに平成72年でございますけれども、2万6,000人の人口推移を目指したいというふうに考えております。

以上です。

○議長（佐々木慶和君） 松橋議員。

○18番（松橋勝利君） 今市長の答弁、全くそのとおりだと。ただ、それを実行するか、しないか、問題は。今市長が申し上げたように、いろんな子育て支援とかなんとか、医療費無料、そういうことはもうやっていることは私も重々わかる。ただ、今市長も言ったように、どこでもやっているような状況のことをやっているとみんな同じなの。思い切った私は政策をとらなければだめだと。だから、私はこの22年から一貫して2年ごとにこの人口減少対策を取り上げてきている。前にも言っておりますけれども、どこでもやっているようなことをやっているのでは何も効果上がらないのだ。

○議長（佐々木慶和君） 松橋議員、下しゃべれば、上さ戻られない一般質問、一問一答だから。上から順番でねばまねんだ。今下のこと取り上げでいる。

○18番（松橋勝利君） 人口減少にいつてしまった。

○議長（佐々木慶和君） 上に戻れなくなるので、やり直して。

○18番（松橋勝利君） 今市長、最後にそれしゃべったわけな。わかった。

苗の農業問題だ。農業問題、これ種苗の助成制度、これ思い切った方針でやってもらいたいと、こういうことです。それから、私さっき聞かなかつたけれども、予測として富蔭支店だけでこの二千三百何十万の苗の購入、それつがる市全体で私は約1億と聞いていたけれども、どのぐらいあるのか。まず、問題、そういうことも聞きながら、それによって助成制度の割合とか、そういうことも変わってきますから、それ調べていると思うので、そういうことも聞きながら、これをまず私はよそでやっていないような農業に特別力を入れるのだと、つがる市は、こういう気構えを求めたいわけです。これは次の人口減少対策にも附随していくのだけれども、まず農家の後継ぎがないと

つがる市の人口はふえるわけがない。なかなか簡単に企業誘致なんてでもできるわけでもないし、そういう点でこの種苗の助成制度、これを何とかして実行してもらいたい。そういう点で経済部長、調べていたら何ぼあるか。

○議長（佐々木慶和君） 経済部長。

○経済部長（山内信昭君） 松橋勝利議員のご質問にお答えします。

種子の販売額なのですけれども、つがるにしきたの稲垣支店、富蒔を除いた部分が5,995万9,000円、JAごしょつがるが2,577万9,000円、先ほど議員がおっしゃいました富蒔が2,332万7,000円、合わせて1億900万となります。

○議長（佐々木慶和君） 松橋議員。

○18番（松橋勝利君） やっぱりおよそ1億、それに対してまず私はここで何%助成しろとか、こういうことはなかなか言われなくても、財政の関係もありますから、どうだ、幾らかでもこの約1億円に対しての、農家の足腰を強くするという意味において、後継ぎが帰ってくるような農業でないとだめだと、私はこう思うので、その辺にこれはやっぱり決断するのは市長でないとだめだと思ってくれる、そういう検討をしてもらえないかということ。

○議長（佐々木慶和君） 福島市長。

○市長（福島弘芳君） 先ほどの答弁でも答えましたように、JA2つありますし、そのトータルが1億900万というようなことの金額が要するに苗として、種苗として買っておるわけですので、そのうちまたつがるにしきた、あるいはまたごしょつがるというふうなことで、どのくらい助成しているのか私はまだはっきりわかっていませんので、その辺の兼ね合いもありますけれども、国、県に対しても要望するし、先ほど言いましたように、また市単独でも検討してまいりたいということでございます。

○議長（佐々木慶和君） 松橋議員。

○18番（松橋勝利君） このつがる市は基幹産業が農業であることは私何回も言いますが、ただこのつがる市はそれでもよその町村から比べて自衛隊とかそういうところも少しではありますけれども、そういうところもありますし、何としても私はこの農家の足腰強くする。こういう手のほか人口の減少は食いとめられない、私はこう思っている。何せここで飯食える農家でなければだめだ。こう思っている。こういう点で今回この農業問題の助成、種苗の助成、これに対して、農業委員会会長もおりますので、これは農業委員会の会長というのは農家のもちろん代表であるし、そういう点で今回の私の質問に対する見解をどう感じているか。

○議長（佐々木慶和君） 山本農業委員会会長。

○農業委員会会長（山本康樹君） 松橋議員おっしゃるとおりかと思えます。私もさまざま言いたいことはございます。今回つがる市議会の農業活性化特別委員会で提言書をまとめております。私の言いたいことはほとんどこれに書かれてあるとおおりかと思えます。ただ、この人口減少に関して、

まず種苗のことから言います。つがる市のまず農業の実態を申しますと、大変大規模化が進みました。これは私ども農業委員会のほうでも国からの指導のもと、大規模農家を育てなさい、中核農家を育てなさいということで、中核となる農家の方々に対してどうしても農地をあっせんしている場合がございます。これは当然国からの指導のもとに行っているわけでありましてけれども、当然大規模の農家の方に農地を集約させる、では離農した人はどうするかということになるわけでありまして。当然地元には仕事があれば地元で仕事をするわけでありましてけれども、仕事がないということで若い方々は県外のほうへ仕事を求めていくと、残るのは年老いた老人2人が残る。老人の方々も元気であるうちはいいですけども、1人が動けなくなるとなれば子供を頼ってまた県外へ出ていくということで、農業委員会も一種人口減少に加担している部分がございます。私は現在のつがる市の農業も手をこまねていけば10年後には悲惨なものになっていると思っております。つがる市の農業、今現在の大規模農家、それから4町歩以下の小規模農家もどうしたら生き残っていけるかと。これに提言書に書かれてあるとおり、複合経営を目指していただきたいと、そうなれば当然種苗費もかかってくるわけでありまして、当然つがる市においては農業が基幹産業でございますので、行政としても当然それに助成していくべきだろうとは思っております。そういうことでつがる市の農業、私は二極化させていく必要があるのではないかと。大規模農家ももう限界に達しておりますので、その方々はその大規模のままで土地利用型農業を進めていただいて、小規模農家はハウスなり野菜、近年のつがる市のメロン、スイカ、リンゴ、根菜類なども大変値段もよく安定してございますので、これらを進めていくためにはより一層ブランド化を進めて、市場原理に左右されないような高値で取引できるような農家を育てていくべきかと思っております。そういう意味においては種苗費の助成というのは大変有効な手段になり得るのではないかと考えています。

以上です。

○議長（佐々木慶和君） 松橋議員。

○18番（松橋勝利君） やっぱり農業委員会の会長だけあって農家に対する思い、これは非常にいいと思う。これは農業委員会の会長は、3月の議会においても私質問しているのです。これを見ますと、やっぱり農業に従事している人、そこで結局農家で飯食える対策をとらなければだめだ。こう答えているのです。これは私すばらしいと思っている。そういう点でこれからも市のほうとも十分協議して、できるだけこの農家の足腰の強い農業を進めていく。こういう点で今申し上げたことには特に力を入れてもらいたい。こう思うわけである。そういうことでこの種苗の購入、これは何としても農家のために、何%とかこういうことは財政の関係もありますからそこは言いませんけれども、行っていただきたいと、こう思っておりますので。

次に行きます。人口減少対策、これは結局農家の飯食える、今言った農家で飯食える現状をつくらないと人口はふえない。今小規模農家はそれで1代で皆ほとんど終わりだ。後継ぎは帰ってこない。それを考えると、この人口減少対策というのは何よりも私はつがる市にとっては大事なものだ。

私こう思っている。そういう点でいろいろこの人口減少対策で私質問を22年からやってきたあれを見てみますと、これは24年の私の質問に答えたパーセントであります。平成19年度が減少率が1.7%、20年度が1.3%、21年度が1.1%、22年が1.6、23年も1.6、大体1.六、七%でずっと推移してきています。ところが、これからはもっと減っていく。私はそう予感しています。ただ、ここでその種苗の購入費したからってそう簡単には戻っては来ないかもしれないけれども、そのぐらゐの努力しなければいけない。ここに新聞の記事も私持っておりますけれども、国のほうでもこの人口減少対策では物すごく今力を入れている、私から言うまでもなく皆さんわかっている。そうして取り組んでいる行政に対しては、交付金やら何やらで手厚く交付税とかなんかで与えていくと、国のほうでもこういう取り組みをしてきていますので、これはどこの町村よりもつがる市がこれに農家のために力を入れるのだと、こういうことを目指してもらいたいのです。私前にも言っておりますように、日本一の農家のためのつがる市と、このぐらゐの大きい発想持ってやってもらいたい。こういうことを考えている。そういう点で担当の部長なり市長に聞いたのだけれども、皆さんはどう考えているか聞きたい。

○議長（佐々木慶和君） 総務部長。

○総務部長（倉光弘昭君） 人口減少対策については、そもそも総合戦略、前の議会でも答弁いたしましたけれども、人口をふやす計画ではないと、これが大前提です。国全体が減っていく中で各市町村も絶対減っていくのだと。そういうことで2060年度、平成72年ですか、44年後には2万5,000、6,000、この規模の人口を確保すれば一自治体として市民が暮らしていけるということで設定したものです。その人口減少を緩やかに進めると、とめたいということは総合戦略の中でも一農業問題を解決すれば人口減少がとまるかと、やっぱりそういうことではなくて、全てのその政策についてきめ細かにやっていかないと人口の減少のスピードを緩やかにできないということです。人口問題については農業問題もさることながら、全ての分野について真剣に議論していく必要があるだろうというふうに考えています。国のほうもそのために5年間の期限を設けて、その間データでもって検証しなさいと、いいものは続ければいいし、だめなものは次のアイデアを出せということで、多分5年スパンでまた国も計画組ませるでしょう。そういうことで10年後、20年後つがる市が減少していく中の人口規模で市民が安心して暮らせるようなまちづくりをしていくと、そういうことが大事だと思っています。

以上です。

○議長（佐々木慶和君） 経済部長。

○経済部長（山内信昭君） 松橋勝利議員おっしゃるとおり、つがる市は県内でも水田面積が一番ということで、基幹産業が農業ということは私も重々感じています。そして、農家あつてのつがる市ということで、本当に少子高齢化とか労働力の高齢とかでなかなか厳しい情勢であります。しかし、市としてもこれからつがる市をこれからも存続するためにも、先ほど総務部長が言ったように経済

部だけでなく市内全部で検討して、若者たち、また住みよいまちづくりについてこれから向かっていかなければならないと思っております。

以上です。

- 議長（佐々木慶和君） 松橋議員。
- 18番（松橋勝利君） これで終わる。ご苦勞であった。
- 議長（佐々木慶和君） 以上で松橋勝利議員の質問を終わります。

◎散会の宣告

- 議長（佐々木慶和君） これをもって本日は散会とします。あしたは午前10時に会議を開きます。
(午後 2時33分)

第 3 号

平成 2 8 年 1 2 月 6 日 (火曜日)

平成28年第4回つがる市議会定例会会議録

議事日程（第3号）

平成28年12月6日（火曜日）午前10時開議

1 開議宣告

1 議事日程

日程第1 一般質問

日程第2 総括質疑

報告第11号 専決処分した事項の報告の件
(損害賠償の額の決定の件（専第20号）)

報告第12号 専決処分した事項の報告の件
(損害賠償の額の決定の件（専第21号）)

報告第13号 専決処分した事項の報告の件
(損害賠償の額の決定の件（専第22号）)

報告第14号 専決処分した事項の報告の件
(損害賠償の額の決定の件（専第23号）)

報告第15号 専決処分した事項の報告の件
(損害賠償の額の決定の件（専第24号）)

報告第16号 専決処分した事項の報告の件
(損害賠償の額の決定の件（専第25号）)

報告第17号 専決処分した事項の報告の件
(損害賠償の額の決定の件（専第26号）)

報告第18号 専決処分した事項の報告の件
(損害賠償の額の決定の件（専第27号）)

報告第19号 専決処分した事項の報告の件
(損害賠償の額の決定の件（専第28号）)

報告第20号 専決処分した事項の報告の件
(損害賠償の額の決定の件（専第29号）)

議案第78号 平成28年度つがる市一般会計補正予算（第4号）案

議案第79号 平成28年度つがる市農業集落排水事業特別会計補正予算（第3号）案

議案第80号 平成28年度つがる市公共下水道事業特別会計補正予算（第3号）案

議案第81号 平成28年度つがる市国民健康保険特別会計補正予算（第3号）案

議案第82号 平成28年度つがる市後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）案

- 議案第83号 平成28年度つがる市介護保険特別会計補正予算（第3号）案
- 議案第84号 つがる市地方活力向上地域に係る固定資産税の特別措置に関する条例案
- 議案第85号 つがる市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例案
- 議案第86号 つがる市特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例及び旧つがる市教育委員会教育長の給与及び勤務時間等に関する条例の一部を改正する条例案
- 議案第87号 つがる市議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例案
- 議案第88号 つがる市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例案
- 議案第89号 つがる市税条例の一部を改正する条例案
- 議案第90号 つがる市公の施設に係る指定管理者の指定の件
(つがる市稲垣野菜育苗センターA棟、つがる市稲垣野菜育苗センターB棟、つがる市稲垣野菜育苗センターC棟、つがる市稲垣花き育苗センター、つがる市稲垣ライスセンター、つがる市稲垣カントリーエレベーター)
- 議案第91号 つがる市公の施設に係る指定管理者の指定の件
(つがる市ふるさと創生物産広場、つがる市柏農産物加工技術開発センター)
- 議案第92号 つがる市公の施設に係る指定管理者の指定の件
(つがる市木造農産物加工センター)
- 議案第93号 つがる市西北五広域連合規約の変更の件
- 議案第94号 青森県市町村総合事務組合規約の変更の件
- 日程第3 予算特別委員会の設置
- 日程第4 議案等委員会付託
- 日程第5 請願・陳情の件
- 請願第2号 林集落内の排水路の整備に関する請願書
- 陳情第4号 若い人も高齢者も安心できる年金を求める意見書採択の陳情のお願い
- 陳情第5号 地方議会議員の厚生年金への加入を求める意見書の提出等について（依頼）

本日の会議に付した事件

議事日程のとおり

出席議員（20名）

1番	齊藤	渡	2番	田中	透	3番	佐々木	敬藏
4番	長谷川	榮子	5番	成田	博	6番	木村	良博
7番	佐藤	孝志	8番	長谷川	徹	9番	三上	洋
10番	野呂	司	11番	天坂	昭市	12番	成田	克子
13番	佐々木	直光	14番	佐々木	慶和	15番	平川	豊
16番	山本	清秋	17番	伊藤	良二	18番	松橋	勝利
19番	白戸	勝茂	20番	高橋	作藏			

欠席議員（なし）

地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

市 長	福 島 弘 芳
副 市 長	佐 藤 昭 三
教 育 長	葛 西 岨 輔
総 務 部 長	倉 光 弘 昭
財 政 部 長	三 上 保 男
民 生 部 長	八木橋 勝 弘
福 祉 部 長	境 宏
経 済 部 長	山 内 信 昭
建 設 部 長	新 岡 秀 行
会 計 管 理 者	下 山 芝 規
総 務 課 長	今 正 行
財 政 課 長	加 藤 靖
市 民 課 長	長 内 信 行
福 祉 課 長	白 戸 登
農 林 水 産 課 長	工 藤 睦 郎
土 木 課 長	宮 崎 朋 仁
教育委員会委員長	成 田 悦 雄
選挙管理委員会委員長	成 田 照 男
農業委員会会長	山 本 康 樹
監 査 委 員	長谷川 勝 則
教育委員会部長	木 村 好 秀
消 防 長	山 口 一 寿
選挙管理委員会事務局長	岩 川 正 人
農業委員会事務局長	小山内 健 二
監査委員事務局長	北 島 悟

職務のため議場に参加した者の職氏名

事 務 局 長	野 呂 金 弘
事 務 局 次 長	秋 田 俊
総 務 係 長	三 上 眞 理 子
議 事 係 長	葛 西 正 美

◎開議宣告

○議長（佐々木慶和君） 皆さん、おはようございます。ただいまの出席議員数は20名です。定足数に達していますので、これより本日の会議を開きます。

（午前10時00分）

◎一般質問

○議長（佐々木慶和君） 本日の議事日程はお手元に配付のとおりであります。

日程第1、昨日に引き続き一般質問を行います。

◇ 伊 藤 良 二 君

○議長（佐々木慶和君） 第7席、17番、伊藤良二議員の質問を許可します。

伊藤良二議員。

〔17番 伊藤良二君登壇〕

○17番（伊藤良二君） 改めておはようございます。第7席、伊藤でございます。早速質問に入らせていただきます。

第1のつがる市立図書館の運営についてでございます。先日イオンの柏店投書箱に子供さんの字で一言、図書館をつくってくれてありがとうというメールが入ってありました。大変うれしい言葉です。開いてくれた市長さんに感謝するというような店長さんのご回答もありましたけれども、昨年12月の議会で市長は急に、夏休み前にオープンさせて子供たちの勉強に図書館を役立てたいということで、あっという間に7月の29日にオープンさせたわけでございますけれども、そして4カ月たったわけでございます。その間の図書館の運営について、1番目に市立図書館の現況報告を求めたいと思います。まず、11月までの4カ月の入館者数。2番目に、アンケートをとったみたいですが、アンケート結果の主な点を簡単に説明していただきたいと思います。それから、随分県外、県内、議員団、そして自治体、各団体視察にお見えになっているようでございますけれども、どのぐらい、どういうところから来ているのか簡単に説明と、特に来る方々の目的、質問内容など手短かに教えていただきたいと思います。

2番目に、つがる市立図書館について、これから春3月まで高校受験、大学受験、資格試験など受験のシーズンに入るわけですが、図書館の閉館時間、このシーズン中だけでも9時ごろまで延長できないものか、特にこの市立図書館は全国で初めてと言っていいぐらいのショッピングセンターの中に設置した図書館でございますので、ある程度ショッピングセンターと足並みもそろえることも必要だと思う。利用者の便利のために言うわけですが、その点に関して教育委員会の考えも伺いたいと思います。

3番目に、郷土資料コーナーはなぜ全面禁止なのか伺いたいと思います。

4番目に、図書館では今後クリスマス、正月、冬休みに向けて何か簡単なイベントなど考えておられるのかどうか伺いたいと思います。

5番目に、図書館では運営審議会をいつ発足させるのか伺いたいと思います。

6番目に、入館者数が20万人になるのはいつごろか、そして7月29までの1年間の入館者客数の見込み、これを見込みですけれども、見込みの数をお知らせいただきたいと思います。

7番目に、1年目を迎えて新しく平成29年度、来年度の図書館の事業計画と要望する予算を述べていただきたいと思います。

8番目に、音楽、映像関係のコーナーはないのか、今後考えているのか伺いたいと思います。

9番目に、よく言われるのですけれども、本の寄附、寄贈、あげたいということをよく言われます。これは受けるのかどうか、教育委員会のお考えをお聞きしたいと思います。

10番目に最後に、本の発注は地元にも少し、いろんなことがあると思いますけれども、その事情も教えていただきながら、発注は少しはすべきではないかと思うのですけれども、その辺の考えも伺いたいと思います。

以上、つがる市立図書館の運営について1番目の質問でございます。

2番目の相撲クラブの体罰に関する裁判状況と、市は早期に解決する意思はないのかという質問でございますけれども、これに関しては議長、前向きな進展と動きがあったようでございますので、この後説明会を開くということですので、この2番目は割愛させていただきたいと思います。

3番目に、旧中央公民館の講堂の解体、修理でございますけれども、解体に関して今、どのような進捗状況なのか。また、移築の場所が未定ということですが、これに関して教育委員会、考えがその後進展しているのかどうかお伺いしたいと思います。

最後に4番目、大変大きな金額のテーマが前議会で出てきましたけれども、新総合体育館の構想についてでございます。これについてもう少し、今つかみで建設費は前と同じ39億なのか、財源は何でやるのか。それから、これは今進んでいる30億の最終処分場と重なる、前後するみたいですが、財政的に大丈夫なのか、これは少し財政部長のほうからも述べていただきたいと思います。

それから、この新総合体育館についてランニングコスト、想定でのつかみでしか言えないと思いますが、ランニングコスト、年間のコストはどのぐらいなのか、まず伺いたいと思います。

以上、これで1回目の質問を終わらせていただきます。

○議長（佐々木慶和君） 答弁を求めます。

福島市長。

〔市長 福島弘芳君登壇〕

○市長（福島弘芳君） 伊藤議員の質問、図書館あるいは旧木造の講堂、それから総合体育館でございますけれども、私からは総合体育館のほうから答弁したいと思います。

今つがる市で建築する総合体育館の構想としては、建設に向けた今用地の検討、これを担当課に指示してございます。将来的に運動施設の集約、これも考慮しつつ、まずは屋内スポーツの振興あるいはまたスポーツ観戦ができる体育館の建設を急いでまいりたいというふうに考えております。

ほかの質問は担当課のほうから答弁させます。

○議長（佐々木慶和君） 葛西教育長。

○教育長（葛西岷輔君） 図書館の運営についての5番目について、私のほうから答弁したいと思います。

5番目は、図書館では運営審議会等を発足させないのかというご質問でございます。市立図書館条例では、図書館法に基づく図書館協議会を置くことにしています。委員定数は15人以内、任期は2年と定めており、図書館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館方針につき館長に対して意見を述べる機関となっております。図書館協議会の開催につきましては、10月に実施した図書館の満足度調査の集計分析が間もなくまとまりますので、それをもって今月中、12月中の開催に向けて準備を進めているところでございます。

あとの質問については、教育部長のほうから答弁いたします。

○議長（佐々木慶和君） 木村教育部長。

○教育委員会部長（木村好秀君） それでは、図書館の運営について順次答弁したいと思います。

まず、1点目の市立図書館の現況報告ということです。これにつきましては、11月末で入館者数は14万3,608人となっております。1日平均入館者数は1,187人、また図書館カードの登録者数が約5,400人、貸出冊数は6万冊を超えております。

〔「もう少しゆっくりお願いします」と言う人あり〕

○教育委員会部長（木村好秀君） 11月末の入館者数は14万3,608人、1日平均の入館者数は1,187人、図書館カード登録者数は約5,400人、貸出冊数は6万冊を超えております。

そのほか視察訪問とかありますので、その部分についてご回答したいと思います。まず、開館前ですけれども、7月27から11月30までの状況についてお答えいたします。まず、視察に関して県外の議員団の方々がお見えになっております。県外から7団体45人、また県内の図書館関係団体が4団体78人、国、それから他の市の職員等が3団体37人、視察関係は合計で14団体160人となっております。また、視察見学のほうなのですけれども、市内の小学校から6小学校10学級473人、市内の保育所、子育て支援センター、2団体43人、市外の小学校1校2学級28人、その他2団体ありまして60人、団体数で11団体604人となっております。特に県外の市会議員の方々の訪問につきましては、大分県佐伯市、埼玉県上尾市、栃木県足利市等々が来ておりまして、まずこの施設についてはやはり合併後図書館が古くなっているという状況があるので、まず自分たちの図書館をどうしたものかということで見学に来ております。また、国のほうからは総務省統計図書館というところから来まして、これも国の中の予算の関係で、まず老朽化が一つあるということと、サービスの向上についてとい

うことで視察に来ております。そのほか岩手県久慈市では駅前開発に図書館を入れたいということで、どういう形で入れたらいいのかということで来ております。

主な質問内容なのですがすけれども、まずイオンモールに市立図書館が設置するまでの背景、経緯、プロセスについて質問がありました。また、議会内での議論についてはどうですかという内容です。また、イオンモール内に図書館を設置したことによって市民の意見はどのような意見が多いですかというこの問い合わせありまして、図書館に伺いながら説明しております。

次に、10月に実施しました図書館の利用者満足度調査の概要についてご報告します。期間は10月9日から16日までの8日間、短い期間ですけれども8日間で行いました。回答者は407人おりまして、男女比でいきますと男性が113人、女性が285人、無記名が6人でした。年齢別は10代から80代までたくさんの方がアンケートに答えていただきました。特に多かったのが30代の84人、40代の80人、50代、60代は両方とも64人という多くの方々にアンケートに答えていただいております。このアンケートの方法は、点数方式で1点を標準として、満足度が高ければ2点、通常の満足は1点、やや不満がマイナス1点、非常に不満がマイナス2点という採点方法で、平均1点を上回れば満足度が高いのかな、また下回れば満足度が低いという調査方法になっております。項目については、スタッフの対応という部分を5項目、図書館サービスが10項目、施設管理が5項目、指定管理が2項目、この内容についてアンケートいただきました。その中で、まずスタッフの対応については、挨拶、声かけ、説明等は1.3、1.4と、大変満足しているという状況でした。図書館サービスにつきましては、まず図書充実というのが0.7、やはりまだまだ図書の充実を図っていかなければならないという結果になっております。また、書架の配置についても0.9と、若干やはり調べにくい点もあるのかなというふうな結果になっています。1を超えた部分につきましては、まず開館日数、時間については1.2ということで、ある程度満足されているというふうに考えております。また、貸出点数、期間、要は5冊の2週間を想定していますけれども、それについても1.2ということで、ある程度満足されているのかなというふうに受けとめております。

次に、2点目の図書館の閉館時間を受験シーズンだけでも午後9時までにはできないかという質問でございます。これも6月議会において伊藤議員のほうに、開館時間の延長についてご質問があり回答申し上げてございました。まず、現在午後8時でありますので、そういう9時まで延長した場合は年間で約580万ぐらい経費かかりますよという答弁をさせていただいております。それを単純に1カ月程度やったにしても50万ぐらいはかかるのかなというふうに考えております。ただ、これ予算だけの話ではなくて指定管理を受けている図書館流通センターの職員のちょっと関係がありまして、指定管理者側としては職員との雇用契約の中では、要は閉館を8時という想定して、その前後、残務処理とかいろいろなものを含めた雇用契約を結んでいるということがありまして、これをさらに1時間延ばすということであれば、再度雇用契約の見直しが必要と迫られるということだそうです。スタッフの皆さんを見ますと女性の方が多いということで、それが延びることによって万が一退職

されるとかということになれば、また大変なことということもありまして、これについては来年度以降の指定管理者との協議の中でまた考えさせていただきたいというふうに考えております。

そして、3点目の郷土資料コーナーについて、貸出禁止なぜしているのかということですが、まず郷土資料コーナーにつきましては、基本的に販売されていない図書や資料など貴重なものが多く、毀損、紛失等の懸念から図書館内での調べるためのものということで活用させていただきたいと考えております。

次に、4点目の今後のイベント関係ですが、図書館ではこれまで季節感を演出するために季節の行事に合わせた館内の飾りつけや、それに関する本のコーナーの設置を行ってきております。また、作家の命日などにはその作家の作品紹介などもまた行ってきております。これからはクリスマス、お正月とあるのですが、クリスマスの飾りつけを行ってクリスマスにちなんだ絵本の読み聞かせ会を12月22日まで、毎週木曜日、連続してやるということの決定しております。また、新年を迎えると正月にふさわしいイベントをしたいというふうに指定管理のほうからの報告も受けてございます。

次に、5点目は教育長がお答えいたしましたので、6点目、入館者数が20万人になるのはいつごろかということですので、先ほどお話ししたように11月末で14万3,608人ですので、この状況でいくと2月中には20万人になるのではないかなというふうに考えております。今までの状況を見ますと、1月2万人を下回る状況にはまずないということで、1年間でどれくらいかという7月28日まででは30万人まではいけるのかなというふうに、ちょっと希望的観測でありますけれども見込みを立てております。

次に、7点目の29年度の事業計画、予算要望につきましては、まず新たな取り組みとしては学校図書館との緊密な連携を図ることを目的に、各学校へ図書をセットにして順次貸し出しする事業を計画しており、その図書購入費として200万円を考えてございます。また、指定管理料は5,000万で、そのうち館内図書購入費につきましては500万を見込んでおります。

次に、8点目の音楽、映像関係のコーナーはないのかというご質問ですが、まず一つとして施設の大きさが限られておりますので、スペース的に図書を充実させたいということでまず一つ設置しておりません。また、DVD、映像等につきましては、市販されているものが3,000円程度のものが、図書館で購入すると著作権の関係で3,000円のもの1万6,000円ほどにはね上がってしまうという状況もあります。ですから、教育委員会としてはまず図書の充実を図りたいということを考えております。その後貴重な地域映像とか、地域の音楽とか、貴重なものがそろえることができればそのスペースも今後検討していければなというふうに考えてございます。

次に、9点目の本の寄贈、贈呈は受けているのかというご質問ですが、今現在その問い合わせも来ておりますし寄贈も受けております。その内容につきましては、まず本の状態を確認させていただいています。あとは内容、そしてまた貴重なものなのかなどを調べた上で寄贈を受けてお

ります。特につがる市に関する図書資料につきましては、図書館のほうから関係団体のほうにあえて寄附のほうをお願いしているという状況もございます。

次に、10点目の本の発注は地元にも発注できないかということですが、まず図書は定価でありますので、地元業者からも購入はできます。ただし、図書館の図書はまず汚れを防ぐためにフィルムコーティングまずしています。そのほか盗難防止とかいろいろな関係でICタグの設置、それから図書館情報であるTRCマークも装備して、そういうものを装備しながら納入していただくことになっているのですけれども、それらの装備品についても経費としては見ておりますので、フィルムは全て装備した状態で納入できれば市内の業者でも可能ということになります。

次に、3番目の旧木造中央公民館講堂についてということですが、まず今現在解体、保存工事の設計は終わりました。準備整次次第入札に向けて準備をしたいというふうに考えてございます。以前から議員の皆様にはご説明しておりますけれども、講堂の意匠についてはバロックやアールデコ建築などで多様な様式がまじった昭和初期の近代建築物で、県内には似たようなものがない建物で貴重なものであるということにされております。このことから再築に当たっては、まず建築当時の様式、色合い、貴重なデザインという形になりますので、それを市民の皆さんに見ていただき、20年30年と皆さんに使っていただければというふうに考えておりますので、そのためにも議員の皆様のご理解とご協力を得ながら、最適な場所を協議しながら決めたいと考えております。

次に、4番の新総合体育館についてでございます。まず、事業費については先般議員説明会で説明したスケジュール、それから概要の中で話しましたように、計画についてはつがる市スポーツ振興計画の中の当時の事業費ということで39億ということで見えております。ただ、これについてはまだ用地も決まっておりませんし、設計もしておりませんので、今のところは39億で財政部と協議しながら総合計画、過疎計画のほうには計上させていただいております。財源につきましては、補助事業としては学校施設環境改善交付金事業を見込んでございます。これは建物の床面積の3分の1の補助事業ということになります。

次に、維持管理費、ランニングコストはどのぐらいになるのかということで、まず設計しておりませんので、実際発表することはできないのですけれども、参考にです。稲垣体育館で指定管理料含めて1,100万になっています。また、松の館、人件費は含まないで約2,800万かかっております。ですから、その規模によってはある程度の維持管理、ランニングコストはかかるのかなというふうに考えております。

以上で答弁のほう終わらせていただきます。よろしく申し上げます。

○議長（佐々木慶和君） 三上財政部長。

○財政部長（三上保男君） 1回目のご質問の最後になりますけれども、今後新総合体育館の建設、それから一般廃棄物処理場整備などの大規模事業が計画されている中で財政的に大丈夫なのかというご質問でございます。財政課では、新たな総合計画、それから過疎計画が策定されたことから、

平成28年度から32年度までの5年間の中期的及び37年度までの10年間の長期的な財政運営計画について各種の事業を各年度に張りつけまして、どのような財政状況になるかシミュレーションしてございます。その結果、総合体育館は29年度から34年度までの6年間、一般廃棄物処理場は28年度から32年度までの5年間の計画ですが、その間4年間重複する期間があります。平成31年、32年度に一時的ではありますが、財政の健全化判断比率である実質公債費比率、これが13.5%を超えてくると見込んでございます。それと、将来負担比率も150%を超えてくる見込みであります。いずれも財政的には安全圏内で推移していくと見込まれております。また、地方債の現在高も31年度、32年度がピークになる見込みですが、その後今のところは大規模な事業が予定されていないので、各数値は改善されていくであろうと予想されております。確かに総合体育館、一般廃棄物処理場の整備は事業費が大きくて今後の財政運営に支障がないか心配される場所ではありますが、維持管理費等も新たに発生することもあります。そのことから既存の同様な施設、それから複数ある施設の統合あるいは廃止等も含めて今後さらに見直しをしながら、将来の財政運営に悪影響がないように計画的に事業を実施していくことが重要であると考えてございます。

以上でございます。

○議長（佐々木慶和君） 伊藤議員。

○17番（伊藤良二君） 2回目に入らせていただきます。

まさかこんなに市民の皆さん、また近隣の市町村の皆さんに利用していただいて喜ばれるとは、市長もこれほどではないとは思っていたのではないかとというぐらい図書館、皆さん喜んで利用していただいているのですけれども、最近教育長、部長が随分答弁していただいて頑張っていたかもしれませんが、教育長に、図書館長でありますので、生徒の皆さん、それから資格試験やる大人の皆さんとか随分夜遅くまで勉強しています。想定内の図書館の使い方まくなっているなど思っているのですけれども、こういうのにやっぱり教育者として、図書館長として配慮して、そういう期間だけでも少し人の配置とかそういうものを足してやったりして便宜を図っていただきたいと思うのですけれども、私痛しかゆしのところはあるのですよ。あのオープン以来TRCの職員の皆さん、いつ休んでいるのかというぐらい、気の毒なぐらい仕事もして疲れているとは思いますが、それがずっと来ているわけでなかなか利用者の数が全然落ちないわけですよ。これはもう少し人的な手配、それから人件費とかそういうのもTRCの上のほうと相談してみる必要がある。指定管理を受けた会社のスタッフが倒ればもう意味ないですから、そういう点でそういうのはやっぱりトップの教育長の判断だと思いますので、そういうところをこれからTRCの上のほうと相談していただければと思うのです。予想外に評判がよくて、最近の図書館の青森県の流れとして私思うのですけれども、つがる市の図書館ではという言葉がよく聞かれます。要は青森県の図書館の標準スタンダードが柏のイオンの図書館になってきているのかな。戦前からのあの弘前の市立の図書館ですら来年の春からTRCに指定管理すると。郷土館のほうは、この間講演に来ていただいたペンク

ラブのほうに委託するのか、あと企画は専門にやるアップルウェブですか、そちらのほうにやるというような話ですけれども、そのぐらい予想外に人数が多くてスタッフも大変疲れていると思いますので、その辺の配慮とかも少しやっていただければと思います。図書館ばかりやっているわけにはいきませんので、その1点だけ教育長の答弁いただきたいと思います。

○議長（佐々木慶和君） 葛西教育長。

○教育長（葛西岷輔君） 図書館づくりについては、当初から最初から市民の声を大事にして、市民の図書館ということで進めていこうということは変わっておりません。今伊藤議員が話されたように、いろんなよいお話は聞かされますけれども、スタートしてまだ4カ月ということで、これからどういうことを考えて、どういうふうにさらに進めていけばいいのかというところを大事にしていきたいと。したがって、いろんなこれからイベントとか、いろんな市民が求めていることに応えていくということになればスタッフは大丈夫かということですが、そのところはだんだん使っているうちに図書館をどう使えばいいのかとか、そういう力もだんだん出てくるのでないかな。少し様子を見ながら大事にしなければならぬ点は、市民が求めているところは何かということをお大事にして進めていきたい。今スタッフのことについて急にどうのこうのということとは言えないわけですが、その様子、状態には応えていくように、前向きにやっていけるように相談して頑張っていきたいと、そのように考えております。

○議長（佐々木慶和君） 伊藤良二議員。

○17番（伊藤良二君） 郷土資料のコーナーでございますけれども、全面的に貸出禁止ではなくて、できればそんなに貴重でなくて、郷土のことは書いているのですけれども、貸し出ししても構わないような本も一緒にまじっているような感じがするのですけれども、そこら辺仕分けしてもらいたいのと思うのですけれども、同じ本ですぐ隣の本屋へ行けば簡単に売っているような本もいっぱいあるのに、全面的に禁止のステッカー張っているわけですが、その辺もう少し柔軟にできないのか、教育長。

○議長（佐々木慶和君） 教育長。

○教育長（葛西岷輔君） 寄贈いただいた図書、それから竹内文庫で入っているところはやはり非常に冊数が限られている。ただ、今おっしゃったようにどういう本なのかというの、本の中身を十分吟味、精査すればまた貸し出しもできるのかもしれない。また、何冊かあるのもありますので、何冊かあるのはやはりその辺も考えられるのかな、その辺は今、中でもちょっと検討しているところですので、そういうのが貸し出しできるのがあるかもしれません。もうちょっと時間いただければと思います。

○議長（佐々木慶和君） 伊藤議員。

○17番（伊藤良二君） 図書館に関して最後でございますけれども、地元の業者を少しは何とか使うように検討していただきたいということ、もう一度部長のほうから。

○議長（佐々木慶和君） 教育部長。

○教育委員会部長（木村好秀君） 図書の購入につきましては、まず雑誌等については地元の商店のほうを活用させていただいております。また、通常の図書の購入については地元の業者さんも相談しながら、納入できる状態であればそのままやっただけのこともできると思いますので、その辺も検討させていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

○議長（佐々木慶和君） 伊藤議員。

○17番（伊藤良二君） 3番目の旧木造中央公民館講堂についてでございますけれども、場所がまだ未定ということではありますけれども、私いろいろ文化団体とかの声を聞きますと、やっぱり松の館の隣にあってくれれば、文化祭とかそういうのも分かれてやらなくても1つの場所のできるし、何とかそういうふうにならないものかなという強い要望を文化団体からいただいております。その声は多分教育委員会、教育長のほうにも届いているのではないかと思うのですけれども、そういう点。あと、一体となれば本当にいろんな使い方もできるし、これから体育館もできるとそっこのほうで体育はやる、こっこのほうでは役員の皆さんが会議したり打ち合わせができるというような、そういういろんな使い方ができると思うのですけれども、そういう点少し、どちらでもいいですからちょっと考え、場所について。来年度は今度建設予算は申請するけれども、場所がまだ決まっていないというような状態でなくて早くめどつけていただきたいと思うのですけれども、その辺の考え。

○議長（佐々木慶和君） 教育長。

○教育長（葛西岨輔君） なかなか事務局のほうでもうまい進み方ができなかったところもあったのかなというふうに反省もしているわけですが、保存はしろ、さらに活用の点を大事に考えよ、いろんな声が聞かれておりますので、どうすれば場所が決まるのか、もうちょっとみんなで深く考えて納得のいけるようなところまで深まればいいのか。まだ今までそこまで決めてもらえるようなところまで、私たち事務局としてもなかなか説明ができていなかったのかなというふうには考えておりますが、この後さらに活用とかいろんな面からお考えをいただき決めていただければありがたいなど、そのように思っておりますけれども、ひとつよろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（佐々木慶和君） 伊藤議員。

○17番（伊藤良二君） それでは、4番目の新総合体育館について、概略つかみで39億、まあ40億ということですがけれども、最終不燃物処分場、これ30億、合わせて70億、その他もろもろ入れるとここ10年以内に間違いなく100億ぐらいあります。私は即これ市長、財政状況、財政問題、これが市に大変な、重なった場合負担にならないかというふうに考えてしまったわけですがけれども、つがる市財政調整基金、大変頑張って積み上げています。これから苦しくなることを想定しての財政調整基金ですがけれども、それから財政部皆さん各課協力して公債費の比率、今12%だと思ひましたけれども、大変低くなってよくなっている。それから、将来負担比率、これも低くなっている。百三十何

ばであったか、そのぐらいに大変高い時期、160ぐらいいった高い時期もあったのですけれども、長い努力の間にこつこつとよくなってきたのですけれども、やっぱり聞いてみると、財政部長から話聞いてある程度は安心しましたけれども、やっぱり割合は大変上がって厳しくなるみたいですが、2年前にこれからは何あるかわからないし、人口が減っていく、収入が減っていく、交付税も減っていくという見通しですので、2年前、2014年、平成26年11月5日の東奥日報のこれ第1面の記事ですけれども、米価の急激な下落、これに対して市では急遽県内で稲作農家に2億円、正確には2億5,000万ぐらい支援したわけですが、種もみの補助、どこもやってないことを簡単にできたということは、こういう財政がしっかりしてきて借りに頼らなくても財政調整基金などを使って農家を助けることができると、そういうやわらかい健全な財政を保たないと私はこれから大変だと思えます。市長はたまに考えられないようなことを思い切ってやってしまうところで、それも悪いことではないし農家のために、これも財政が健全であればできることですので、そういうつもりで市長から財政にらみつつ、体育館も大事ですが、間違いなく絶対先にやらなければいけないのはこの最終処分場ですので、あわせてやるということですが、財政的にどういう姿勢でいくのか、市長に最後答弁いただきたいと思えます。

○議長（佐々木慶和君） 福島市長。

○市長（福島弘芳君） 何をやるにも財政が絡むわけでございますけれども、いずれにいたしましても、それこそ担当のほうとよく相談しながらの今ごみの処分場あるいはまた総合体育館でございますので、十分やっていけるというように考えております。

○17番（伊藤良二君） 終わります。

○議長（佐々木慶和君） 以上で伊藤良二議員の質問を終わります。

これで今定例会に通告された一般質問は全て終了しました。

◎総括質疑

○議長（佐々木慶和君） 日程第2、提出議案に対する総括質疑は通告がありません。

◎予算特別委員会の設置

○議長（佐々木慶和君） 日程第3、議案第78号から議案第94号までの計17件を一括議題とします。

お諮りします。ただいまの議案のうち、議案第78号から議案第83号までの予算関係6件については、全議員で構成する予算特別委員会を設置し、これに付託の上、審査をしたいと思えますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） ご異議なしと認め、そのように決定しました。

なお、ただいま設置した予算特別委員会を本日の会議終了後、この議場に招集します。

◎議案等委員会付託

- 議長（佐々木慶和君） 日程第4、予算特別委員会に付託した以外の議案については、お手元に配付のとおり各常任委員会に付託します。
-

◎請願・陳情の件

- 議長（佐々木慶和君） 日程第5、請願・陳情の件、請願2号及び陳情第4号、陳情第5号を上程し、お手元に配付の請願、陳情付託表のとおり所管の常任委員会へ付託いたします。
-

◎散会の宣告

- 議長（佐々木慶和君） 以上で本日の日程は全て終了しました。

明日から13日までは、委員会開催等のため、本会議は休会とします。来る12月14日は午前10時に会議を開きます。

本日はこれにて散会します。

（午前10時52分）

第 4 号

平成 2 8 年 1 2 月 1 4 日 (水曜日)

平成28年第4回つがる市議会定例会会議録

議事日程（第4号）

平成28年12月14日（水曜日）午前10時開議

1 開議宣告

1 議事日程

日程第1 予算特別委員長審査報告、討論、採決

「議案第78号」～「議案第83号」

日程第2 総務常任委員長審査報告、討論、採決

「議案第84号」～「議案第89号」

「議案第93号」・「議案第94号」

「陳情第4号」・「陳情第5号」

日程第3 経済建設常任委員長審査報告、討論、採決

「議案第90号」～「議案第92号」

「請願第2号」

本日の会議に付した事件

日程第1から日程第3

追加日程第1 議案第95号 つがる市公園等に関する条例の一部を改正する条例案

追加日程第2 議案第96号 訴訟上の和解の件

追加日程第3 発議第1号 若い人も高齢者も安心できる年金を求める意見書案

追加日程第4 発議第2号 地方議会議員の厚生年金への加入を求める意見書案

出席議員（20名）

1番	齊藤 渡	2番	田中 透	3番	佐々木 敬藏
4番	長谷川 榮子	5番	成田 博	6番	木村 良博
7番	佐藤 孝志	8番	長谷川 徹	9番	三上 洋
10番	野呂 司	11番	天坂 昭市	12番	成田 克子
13番	佐々木 直光	14番	佐々木 慶和	15番	平川 豊
16番	山本 清秋	17番	伊藤 良二	18番	松橋 勝利
19番	白戸 勝茂	20番	高橋 作藏		

欠席議員（なし）

地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

市 長	福 島 弘 芳
副 市 長	佐 藤 昭 三
教 育 長	葛 西 岷 輔
総 務 部 長	倉 光 弘 昭
財 政 部 長	三 上 保 男
民 生 部 長	八木橋 勝 弘
福 祉 部 長	境 宏
経 済 部 長	山 内 信 昭
建 設 部 長	新 岡 秀 行
会 計 管 理 者	下 山 芝 規
総 務 課 長	今 正 行
財 政 課 長	加 藤 靖
市 民 課 長	長 内 信 行
福 祉 課 長	白 戸 登
農 林 水 産 課 長	工 藤 睦 郎
土 木 課 長	宮 崎 朋 仁
教育委員会委員長	成 田 悦 雄
選挙管理委員会委員長	成 田 照 男
農業委員会会長	山 本 康 樹
監 査 委 員	長谷川 勝 則
教育委員会部長	木 村 好 秀
消 防 長	山 口 一 寿
選挙管理委員会事務局長	岩 川 正 人
農業委員会事務局長	小山内 健 二
監査委員事務局長	北 島 悟

職務のため議場に出席した者の職氏名

事 務 局 長	野 呂 金 弘
事 務 局 次 長	秋 田 俊
総 務 係 長	三 上 眞理子
議 事 係 長	葛 西 正 美

◎開議宣告

- 議長（佐々木慶和君） ただいまの出席議員数は20名です。定足数に達していますので、これより本日の会議を開きます。

（午前10時00分）

◎予算特別委員長審査報告、討論、採決

- 議長（佐々木慶和君） 本日の議事日程はお手元に配付のとおりであります。

日程第1、議案第78号から議案第83号までの計6件を一括議題とします。

予算特別委員長の審査報告を求めます。

成田予算特別委員長。

〔予算特別委員長 成田克子君登壇〕

- 予算特別委員長（成田克子君） 皆様、おはようございます。それでは、予算特別委員会に付託された議案の審査の経過及び結果についてご報告いたします。

去る12月6日の本会議において、予算特別委員会が設置され、平成28年度各会計補正予算案6件の議案について審査の付託を受けました。

本委員会は、12月7日に会議を開き、各会計補正予算の内容等の審査を行いました。今回の各会計補正予算の人件費に関しては、県人事委員会勧告及び市町村共済組合への負担金の確定等による補正であるとの説明がありました。

一般会計補正予算では、ふるさと納税支援業務委託料、障害者福祉費の扶助費、臨時福祉給付金給付事業費及び史跡田小屋野貝塚整備事業費などの内容に質問が出されました。

国民健康保険特別会計補正予算では、納税貯蓄組合に対する事務費補助金及び完納補助金並びに県市町村総合事務組合負担金について質問が出されました。

審査の経過の詳細につきましては、議員全員で構成された予算特別委員会でありますので、省略させていただきます。

付託された計6件について、執行部から詳細な答弁を受け、市政執行上及び事業運営上、妥当な予算措置であると認め、全会一致により原案どおり可決すべきものと決しました。

以上をもって予算特別委員会の審査報告といたします。

- 議長（佐々木慶和君） 委員長報告が終わりましたが、質疑を省略することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

- 議長（佐々木慶和君） ご異議なしと認め、質疑を省略します。

これより討論を行います。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） 討論なしと認めます。

これより採決します。

本案は委員長報告のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） ご異議なしと認め、議案第78号から議案第83号までの6件は、いずれも原案どおり可決することに決定しました。

◎総務常任委員長審査報告、討論、採決

○議長（佐々木慶和君） 日程第2、議案第84号から議案第89号まで及び議案第93号から第94号並びに陳情第4号、第5号、以上計10件を一括議題とします。

総務常任委員長の報告を求めます。

平川総務常任委員長。

〔総務常任委員長 平川 豊君登壇〕

○総務常任委員長（平川 豊君） おはようございます。それでは、総務常任委員会の審査の経過と結果についてご報告いたします。

本委員会は、12月9日に開催し、付託された議案について、執行部より詳細な説明と聴取を行い、審査をしました。

審査の過程において議論された主なものをご報告いたします。議案第84号 つがる市地方活力向上地域に係る固定資産税の特別措置に関する条例案について、特定業務施設整備計画とはどのような内容で策定するかとの質疑に、提出する事業者がどのような部門を拡充して雇用につなげるのかといったことが主な内容となるとの答弁がありました。

議案第88号 つがる市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例案について、新たに追加される鳥獣被害対策実施隊の構成員はとの質疑に、市長が任命する猟友会などのメンバー27名で構成されているとの答弁がありました。

陳情第4号及び陳情第5号については、国による年金財源の確保や、市の負担も伴うが、年金受給者の状況及び幅広い世代の方の政治参加を促すためには必要ではないかとの意見があり、陳情の趣旨についても理解できるとの総意に達しました。

以上のとおり慎重に審査した結果、議案第84号から議案第89号及び議案第93号、議案第94号並びに陳情第4号、陳情第5号については全会一致により原案のとおり可決すべきもの及び採択すべきものと決しました。

以上をもって本委員会の報告を終わります。

○議長（佐々木慶和君） 委員長報告が終わりましたが、質疑を省略することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） ご異議なしと認め、質疑を省略します。
これより討論を行います。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） 討論なしと認めます。
これより採決します。

本案は委員長報告のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） ご異議なしと認め、議案第84号から議案第89号まで及び議案第93号、第94号並びに陳情第4号、第5号、以上10件についてはいずれも原案どおり可決及び採択することに決定しました。

◎経済建設常任委員長審査報告、討論、採決

○議長（佐々木慶和君） 日程第3、議案第90号から議案第92号まで及び請願第2号の計4件を議題とします。

経済建設常任委員長の審査報告を求めます。

木村経済建設常任委員長。

〔経済建設常任委員長 木村良博君登壇〕

○経済建設常任委員長（木村良博君） 改めて、おはようございます。それでは、経済建設常任委員会の審査の経過と結果についてご報告いたします。

本委員会は、12月12日に開催し、本会議より付託された議案3件、請願1件、計4件について、執行部より提出議案について詳細な説明と聴取を行い、また請願については現地を視察、確認の上、請願人からの説明を受けた後、慎重に審査しました。

審査の過程において議論された主なものをご報告いたします。議案第90号から議案第92号までのつがる市公の施設に係る指定管理者の指定の件3件は、指定期間の満了を迎えるが、現在の指定管理者で更新する内容の提案であるとの説明があり、指定することに異論はありませんが、指定後は指定管理することによる効果が出るよう指導するよう、また事業がさらに発展するよう管理者と意見交換を行いながら事業を進めていただきたいとの意見が出されました。

請願第2号 林集落内の排水路の整備に関する請願については、現地調査及び測量並びに関係機関との協議が必要であり、継続して審査すべきではないかとの意見が出されました。

以上のことから、議案3件については可決すべきものと、請願第2号については継続審査とすべきものと全会一致により決しました。

以上をもって本委員会の報告を終わります。

○議長（佐々木慶和君） 委員長報告が終わりましたが、質疑を省略することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） ご異議なしと認め、質疑を省略します。

これより討論を行います。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） 討論なしと認めます。

これより採決します。

本案は委員長報告のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） ご異議なしと認め、議案第90号から議案第92号までの計3件は原案のとおり可決することとし、請願第2号については継続審査とすることに決定しました。

◎日程の追加

○議長（佐々木慶和君） 次に、追加議案として議案第95号、96号、計2件の提出があり、お手元に配付しております。

お諮りします。この際、追加された議案2件を日程に追加し、会議規則第37条第3項の規定により委員会付託を省略して本会議で審議したいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） ご異議なしと認め、議案2件を日程に追加して委員会付託を省略し、これより直ちに審議します。

◎議案第95号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（佐々木慶和君） 追加日程第1、議案第95号 つがる市公園等に関する条例の一部を改正する条例案を議題とします。

説明を求めます。

山内経済部長。

○経済部長（山内信昭君） 改めて、おはようございます。議案第95号 つがる市公園等に関する条例の一部を改正する条例案。

つがる市公園等に関する条例の一部を改正する条例を次のように定める。平成28年12月14日提出、つがる市長。

提案理由としましては、県の施設であるつがる警察署の老朽化に伴い、つがる市所有のあかね公園の用地に移転する計画であることから、市の行政財産であるあかね公園の用途を廃止し、普通財産に移管して、平成29年2月ごろに県に売却する手続をするため、つがる市公園等に関する条例からあかね公園を削除するために本議会に追加提案するものです。

3ページをごらんください。参考資料として、条例の新旧対照表を載せていますけれども、この右側の改正前のあかね公園の項を削るということです。

以上、よろしくお願ひします。

○議長（佐々木慶和君） 説明が終わりました。

これより質疑を行います。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） ないようですので、質疑を終わります。

これより討論を行います。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） 討論なしと認めます。

これより採決します。

本案は原案どおり可決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） ご異議なしと認め、議案第95号は原案どおり可決することに決定しました。

◎議案第96号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（佐々木慶和君） 追加日程第2、議案第96号 訴訟上の和解の件を議題とします。

説明を求めます。

倉光総務部長。

○総務部長（倉光弘昭君） 議案第96号のご説明を申し上げます。

件名は、訴訟上の和解の件でございます。

次のとおり和解を成立させるために提出するものでございます。平成28年12月14日提出、つがる市長。

事件名でございます。青森地方裁判所弘前支部平成27年（ワ）第78号、国家賠償請求事件となっております。

当事者でございます。原告の住所氏名は、お手元の議案に記載しているとおりでございます。被告は、つがる市となっております。

今回の和解に関する条項でございますけれども、ここは4件ほどありますけれども、全部読み上げます。被告つがる市は、原告に対して、被告つがる市立向陽小学校相撲部が指導を委託したつがる相撲クラブでの活動の中で本件事故が生じたことに遺憾の意を表し、本件を教訓に、今後は学校教育及び社会教育を通じ、児童生徒の安全を第一として、スポーツによる児童生徒の健全な発達のため、なお一層適切な指導に努めることを約束する。

2つ目が原告は、被告つがる市に対する請求を放棄するということになってございます。

3つ目が原告と被告つがる市は、原告と被告つがる市との間には本件に関し本和解条項に定めるもののほかに、何らの債権、債務がないことを相互に確認する。

4つ目が訴訟費用は、各自の負担とする、こういう和解条項案となっております。

提案理由は、訴訟上の和解を成立させるに当たり、地方自治法第96条第1項第12号の規定により議会の議決を経る必要があるため、提案したものでございます。

以上、よろしく申し上げます。

○議長（佐々木慶和君） 説明が終わりました。

これより質疑を行います。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） ないようですので、質疑を終わります。

これより討論を行います。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） 討論なしと認めます。

これより採決します。

本案は原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） ご異議なしと認め、議案第96号は原案のとおり可決することに決定しました。

ここで先ほど総務常任委員会へ付託した意見書提出の陳情2件が採択されましたが、これに伴う議員発議案を配付しますので、ここで暫時休憩とします。そのままでお待ちください。

休憩 午前10時19分

再開 午前10時22分

○議長（佐々木慶和君） 会議を再開します。

◎日程の追加

○議長（佐々木慶和君） お諮りします。

ただいまお手元に配付した発議案2件を日程に追加し、本会議で審議したいと思います。ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） ご異議なしと認め、発議案2件を日程に追加し、これより直ちに審議します。

◎発議第1号の上程、採決

○議長（佐々木慶和君） 追加日程第3、発議第1号 若い人も高齢者も安心できる年金を求める意見書案を議題とします。

本案については、先ほど総務常任委員長の報告で採択された陳情と同じ趣旨でありますので、提出者の説明、質疑、討論を省略して直ちに採決したいと思います。ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） ご異議なしと認め、これより採決します。

本件は原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） ご異議なしと認め、発議第1号は原案のとおり可決することに決定しました。

◎発議第2号の上程、採決

○議長（佐々木慶和君） 追加日程第4、発議第2号 地方議会議員の厚生年金への加入を求める意見書案を議題とします。

本案についても先ほど総務常任委員長の報告で採択された陳情と同じ趣旨でありますので、提出者の説明、質疑、討論を省略して直ちに採決したいと思います。ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） ご異議なしと認め、これより採決します。

本件は原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） ご異議なしと認め、発議第2号は原案のとおり可決することに決定しました。

◎閉会の宣告

○議長（佐々木慶和君） 以上で今定例会に付議された案件の審議は全て終了しました。

これで本日の会議を閉じ、平成28年第4回つがる市議会定例会を閉会します。

（午前10時24分）

会議の経過を記載して、その内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成 年 月 日

議 長 佐々木 慶 和

署名議員 長谷川 榮 子

署名議員 成 田 博